

2022 年 度

たばこ耕作資材委託試験公開公報

〔2021 年度（年作）実施〕

第 53 号

同 付 録

Vol. 53（2022）

財団法人 日本葉たばこ技術開発協会

JAPAN LEAF TOBACCO TECHNICAL DEVELOPMENT ASSOCIATION

公開公報第53号の 発行にあたって

2021年度に当協会へ試験依頼のあったたばこ耕作資材のうち、試験を受託したものに
つきまして、日本たばこ産業株式会社の試験機関1カ所、県農業試験機関1カ所の試験地、
ならびに日本たばこ産業株式会社の2原料本部域内の産地に委託して試験を実施しまし
た。

試験結果につきましては、2021年10月に開催の中間成績検討会および2022年2月に
開催しました最終成績検討会の結果に基づいて最終的な成績、総括コメントをとりまとめて
掲載しました。

試験の実施および結果のとりまとめにあたってご協力いただいた各試験機関、試験を担
当していただいた日本たばこ産業株式会社各原料本部、ならびに試験受託耕作農家各位
に厚く御礼申し上げます。

また、試験依頼のあった資材のうち、依頼社から提出された書面、データ等を審査した結
果、試験を実施しなくても実用性があると判断された資材につきましては、依頼社に通知した
「試験を実施しない理由」および提出された関係資料を「付録(その1)、付録(その2)」として、
農薬試験成績書の審査につきましては、依頼者に通知した「農薬試験成績書審査」結果お
よび提出された関係資料を「付録(その3)」として、既合格資材で仕様や名称等の変更申請
があり、2021年4月から2022年3月までに承認されたものを「付録(その4)」としてそれぞれ
収録しました。

本公開公報がたばこ耕作資材の選定、導入に際し、有用な参考資料となることを期待して
おります。

なお、試験事業が2022年4月より葉たばこ財団に譲渡されるのに伴い、公開公報は CD
版での発行となります。冊子での発行は本号が最終となりますことをご承知おき下さい。

2022年3月

財団法人 日本葉たばこ技術開発協会
会 長 原 秀 紀

目 次

年 譜	1
2021年度たばこ耕作資材委託先一覧	3
2021年度たばこ耕作資材委託試験供試器材一覧表	4
2021年度たばこ耕作資材委託試験結果検討会総括コメント	7
2021年度たばこ耕作資材委託試験総括コメント決定打合会概要	9
2021年度たばこ耕作資材委託試験成績	
I. 農薬の部	
1. 殺菌剤	13
2. 植物成長調節剤	19
付録の部	
(その1)メーカー試験により2022年度試験を実施しないことに決定したもの	43
(その2)理由書・見解書により2022年度試験を実施しないことに決定したもの	49
(その3)農薬試験成績書審査(2020年～2021年)	64
(その4)変更申請の承認を受けた資器材(2021年4月～2022年3月)	74

年 譜

(公開公報第52号の年譜に引き続き、2021年4月から2022年3月までの行事記録である。)

2021年	
4月 16日	公開公報第52号を発刊した。
6月 4日	オンラインにより理事会を開催し、2021年度上半期の事業執行状況、及び収益・費用の状況、並びに2021年度たばこ耕作資材委託試験受託状況等が承認された。
6月 17日	オンラインにより、第32回「たばこ用農薬連絡協議会」に参加した。JT、全国たばこ耕作組合中央会、日本葉たばこ技術開発協会の三者で、たばこ用農薬の課題と対応について検討した。
9月 3日	オンラインより理事会を開催し、2021年度下半期の事業執行状況、2022年度の事業計画・収支予算書が承認された他、賛助会員規程および委託試験取扱規程が改定された。
9月 12日	決議の省略により臨時評議員会を開催した。 公益認定関連について決議された。
9月 17日	オンラインにより、第33回「たばこ用農薬連絡協議会」に参加した。JT、中央会、開発協会の三者で、たばこ用農薬の課題と対応について検討した。
10月 12日	書面審査により、2021年度たばこ耕作資材委託試験成績の中間検討会および総括コメント決定打合せ会(常任委員会)を開催した。
11月 8日	オンラインにより、2022年度たばこ耕作資材委託試験のヒアリングを各分野の専門委員により実施した。
11月 16日	全国たばこビルにおいて、監査法人夏目会計事務所により2021年度の会計監査の結果が監事に報告され、その後監事による監査が行われた。
11月 18日	書面審査により、2022年度たばこ耕作資材委託試験の受委託決定打合せを開催した。 試験依頼の内容、試験の実施予定機関等の検討および調整を行った。

11月 18日	オンラインにより理事会を開催した。 2021年度の職務執行報告、事業報告、収支決算等が承認された。
12月 6日	決議の省略により評議員会を開催した。 2021年度事業報告、収支決算が承認された。
12月 8日	オンラインにより、第34回「たばこ用農薬連絡協議会」に参加した。 JT、中央会、開発協会の三者で、たばこ用農薬の課題と対応について検討した。
12月 15日	協会からの公益認定取消申請が承認され、公益法人から一般法人へと切り替わった。
2022年	
2月 17日	書面審査により、2021年度たばこ耕作資材委託試験成績の最終検討会および総括コメント決定打合せ会(常任委員会)を開催し、中間検討会以降に得られた調査結果等の試験成績を検討した。また、農薬試験成績書審査も行われた。

2021年度試験委託先一覧

試 験 実 施 機 関	略 称
日本たばこ産業株式会社 葉たばこ研究所	葉 た ば こ 研
福島県農業総合センター	福 島 C
日本たばこ産業株式会社 東日本原料本部	東 日 本 原
日本たばこ産業株式会社 西日本原料本部	西 日 本 原

注1) 日本たばこ産業株式会社の産地試験実施場所については、下表の表記とした。

産 地 試 験 実 施 場 所	表 記
ひのくにふれあいセンター(熊本県合志市)	(ひのくにC)
上記以外の産地	(県 名)

注2) 日本たばこ産業株式会社各原料本部内の実施場所については、県名で()内に表示した。

2021年度委託試験供試資器材一覧表

I 農薬の部

1. 殺菌剤

供試器材名	主成分組成	調査項目	対象	試験実施機関 (実施場所)	掲載頁
ストロビーフロアブル (BASFジャパン(株))	主成分:クレソキシムメチル: 44.2% 助剤:界面活性剤等	官能検査		東日本原 (岩手県)	13

2. 植物成長調節剤

供試器材名	主成分組成	調査項目	対象	試験実施機関 (実施場所)	掲載頁
パスタ液剤 (BASFジャパン(株))	主成分:グルホシネート 18.5% 助剤:界面活性剤、色素等	葉害	植付 10日前	西日本原 (ひのくにC)	19
				福島C (センター内 本畑)	24
			大土寄 期	西日本原 (ひのくにC)	28
				福島C (センター内 本畑)	32
		官能検査		西日本原 (ひのくにC)	35
				福島C (センター内 本畑)	37

2021年度たばこ耕作資材委託試験 総括コメント

農薬の部

殺菌剤

資材名および試験対象	試験依頼社	総 括 コ メ ン ト
ストロビーフロアブル 薬効・薬害(赤星病) 官能検査	BASFジャパン (株)	薬効・薬害:3,000倍希釈液 2回 茎葉散布で薬害はなく、 効果が認められる(2020年度終了)。 官能検査:収穫17日および10日前の3,000倍希釈液 2回 茎葉散布で喫味に対する影響は認められない(終了)。
		[備考]薬効・薬害の試験年(例数):2020(2)
		収穫10日前までの3,000倍希釈液 2回茎葉散布で可である。
ストロビーフロアブル 官能検査	BASFジャパン (株)	官能検査:収穫12日および5日前の3,000倍希釈液 2回 茎葉散布で喫味に対する影響は認められない(終了)。
		収穫5日前までの3,000倍希釈液 2回茎葉散布で可である。

植 調 剤

資材名および試験対象	試験依頼社	総 括 コ メ ン ト
バスタ液剤 (使用量の変更) ＊植付10日前まで 薬害	BASFジャパン (株)	薬害:植付10日前までの500mL/10a 1回 畦面・畦間の 雑草茎葉散布で薬害が認められない(終了)。
バスタ液剤 (使用量の変更) ＊大土寄期 薬害 官能検査	BASFジャパン (株)	薬害:大土寄期の500mL/10a 1回 畦面・畦間の雑草 茎葉散布で薬害が認められない(終了)。 官能検査:大土寄期の500ml/10a 1回 畦面・畦間の雑 草茎葉散布で喫味に対する影響は認められない(終了)。 大土寄期の500ml/10a 1回畦面・畦間の雑草茎葉散布で 可である。

2021年度たばこ耕作資材委託試験総括コメント決定打合会概要

(中間)

- 1 会議主催者 東京都港区浜松町2-7-1 (公財) 日本葉たばこ技術開発協会
- 2 開催日 2021年10月 12日(木)
- 3 開催方法 書面審査
- 4 出席有識者 (公財) 日本葉たばこ技術開発協会 常任委員

三宅 康彦	元日本たばこ産業(株)葉たばこ研究所 所長 (農業機械、農業経営)
鳥越 則昭	元日本たばこ産業(株)沖縄原料本部長 (遺伝育種)
横山 昌雄	(公財) 日本植物調節剤研究協会 技術顧問 (植物成長調節剤・除草剤)
松沢 春雄	元東京農業大学総合研究所 客員研究員 (殺菌剤、殺虫剤、病害虫防除)
長谷川 勉	元日本たばこ産業(株)葉たばこ研究所 副所長 (栽培生理、病害虫防除)

 (公財) 日本葉たばこ技術開発協会 専門委員

古賀 一治	日本たばこ産業(株)葉たばこ研究所 主任研究員 (殺菌剤、殺虫剤、病害虫防除)
岩本 啓秀	日本たばこ産業(株)葉たばこ研究所 副主任研究員 (植物調整剤、病害虫防除)
長村 一男	日本たばこ産業(株)葉たばこ研究所 研究員 (栽培生理、苗床資材、機械・乾燥)
山内 俊	日本たばこ産業(株)葉たばこ研究所 副主任研究員 (栽培生理、本畑資材、肥料・土壌改良剤)

※カッコ内は各委員の専門分野

(最終)

- 1 会議主催者 東京都港区浜松町2-7-1 (公財) 日本葉たばこ技術開発協会
- 2 開催日 2022年2月17日(木)
- 3 開催方法 書面審査
- 4 出席有識者 (公財) 日本葉たばこ技術開発協会 常任委員

三宅 康彦	元日本たばこ産業(株)葉たばこ研究所 所長
鳥越 則昭	元日本たばこ産業(株)沖縄原料本部長
横山 昌雄	(公財) 日本植物調節剤研究協会 技術顧問
松沢 春雄	元東京農業大学総合研究所 客員研究員
長谷川 勉	元日本たばこ産業(株)葉たばこ研究所 副所長

 (公財) 日本葉たばこ技術開発協会 専門委員

古賀 一治	日本たばこ産業(株)葉たばこ研究所 主任研究員
岩本 啓秀	日本たばこ産業(株)葉たばこ研究所 研究員
長村 一男	日本たばこ産業(株)葉たばこ研究所 研究員
山内 俊	日本たばこ産業(株)葉たばこ研究所 副主任研究員

I 農 薬 の 部

1 殺 菌 剤

注) 試験区別で○印が付いた農薬は、比較対照農薬である。

- 1 試験対象 官能検査
- 2 供試器材 ストロビーフロアブル (BASFジャパン)
 - ・有効成分 クレソキシムメチル 44.2%
 - ・Lot No. SOJ-01G
- 3 試験実施機関 日本たばこ産業株式会社 東日本原料本部 (担当者: 佐々木拓人)
- 4 試料採取場所 岩手県九戸郡軽米町
- 5 試験方法
 - 1) 供試品種 第1バーレー種 バーレー21

2) 試験区別および供試面積

試験区別	区 別	希釈倍数	処理量	処理回数	供試面積
1区	無処理	—	—	—	1.0a
2区	ストロビーフロアブル	3,000倍	中葉:180ℓ/10a 上葉:180ℓ/10a	中葉、上葉とも 収穫前、茎葉散布 2回	2.0a

3) 処理方法

2区は、中葉および上葉収穫用の株を別に設け、以下の処理を行った。

中葉は6月25日(収穫17日前)および7月2日(収穫10日前)、上葉は7月20日(収穫19日前)および7月29日(収穫10日前)に、所定濃度および所定量の薬液を背負式動力噴霧器を用いて葉の表裏にむらなく散布した。上葉2回目の散布は当初予定日の雨天により、2日延期して実施した。

4) 試験ほ地の概要

地 目	地 勢	土壌種類	土 性	耕土の 深さ	排水の 良否
畑	傾斜	褐色森林土	埴壌土	20 ^{cm}	良

5) 栽培概要

- (1) 施肥量 N :10.8、P₂O₅ :20.6、K₂O :27.0、堆肥 : 1000 (kg/10a)
- (2) 畦株間距離 120cm×35cm (2,380本/10a)
- (3) 被覆方法 折衷マルチ(黒、全期間)
- (4) 移植月日 2021年4月23日
- (5) 土寄月日 無し
- (6) 心止月日 2021年7月3日

6) 供試農薬以外に使用した薬剤

試験区別	農 薬 名	希釈倍数	施用量	施用月日
各区共通	エキガゾール乳剤	40倍	20ml/株	7月4日
各区共通	エキガゾール乳剤	40倍	20ml/株	7月20日

※わき芽抑制のため使用。

7) 試料採取

試料の着位	試験区別	薬 剤 処 理※		試 料 採 取		1回目薬剤処理から収穫まで		
		月 日	天 候	月 日	天 候	日 数 日	降水日数 日	降水量 mm
中 葉	各区 共通	6月25日 7月2日	晴 晴	7月12日	晴	17	6	68.5
上 葉	各区 共通	7月20日 7月29日	晴 晴	8月8日	晴	19	8	36.5

※1区は薬剤処理なし。

8) 収穫後の処理方法 産地慣行乾燥

9) 官能検査 2021年12月17日から12月23日の間、日本たばこ産業(株)東日本原料本部において、調査を行った。

6 試験成績

表－1 薬剤処理から試料採取までの気象表（軽米アメダスポイント）

月 日	平均気温 ℃	最高気温 ℃	最低気温 ℃	日照時間 h	降水量 mm	摘要
中葉収穫区						
6月25日	18.7	24.4	14.8	5.5	0.0	中葉1回目散布
6月26日	20.1	29.0	13.6	7.4	0.0	
6月27日	21.1	28.5	14.5	10.5	0.0	
6月28日	20.4	27.8	16.0	9.0	0.0	
6月29日	18.2	21.1	15.6	0.0	0.0	
6月30日	20.6	27.7	15.4	10.1	0.0	
7月1日	21.2	27.3	14.9	4.9	0.0	中葉2回目散布
7月2日	20.0	25.9	17.3	5.1	0.0	
7月3日	17.7	20.3	15.6	0.0	0.0	
7月4日	18.1	23.8	15.3	4.0	4.5	
7月5日	21.7	28.3	16.3	3.4	21.0	
7月6日	22.0	25.1	19.0	3.1	0.0	
7月7日	20.8	24.2	18.4	0.0	0.0	
7月8日	20.4	23.8	18.9	0.0	8.0	
7月9日	20.4	23.5	18.8	0.0	11.0	
7月10日	20.1	24.2	18.7	0.0	7.5	
7月11日	22.0	27.5	18.5	0.6	16.5	中葉収穫
7月12日	22.3	27.3	19.3	3.5	0.0	

表－1の続き

月 日	平均気温 ℃	最高気温 ℃	最低気温 ℃	日照時間 h	降水量 mm	摘要
上葉収穫区						
7月20日	26.0	33.9	18.5	13.5	0.0	上葉1回目散布
7月21日	25.1	31.6	20.1	12.3	0.0	
7月22日	23.5	27.4	21.1	0.8	0.0	
7月23日	24.6	31.5	19.2	3.8	0.0	
7月24日	24.9	30.6	20.0	9.9	0.0	
7月25日	25.3	31.4	20.3	10.1	0.0	
7月26日	23.3	27.9	19.7	8.9	0.0	当初散布予定日(雨天により延期)
7月27日	21.0	23.8	19.5	0.0	13.0	
7月28日	23.4	28.3	21.2	1.8	10.5	上葉2回目散布
7月29日	25.9	33.7	21.4	9.3	0.5	
7月30日	25.1	31.6	21.5	3.9	1.0	午前3時に降雨観測
7月31日	23.0	26.3	21.3	0.0	1.5	午前10時-11時に散布実施
8月1日	22.5	24.3	21.3	0.0	6.0	午後1時に乾燥確認
8月2日	26.7	34.0	19.8	9.8	0.0	
8月3日	28.2	35.7	22.9	10.7	0.0	
8月4日	26.8	33.7	22.7	8.2	3.5	
8月5日	27.1	34.4	21.9	12.1	0.0	
8月6日	27.8	34.9	21.6	12.2	0.0	
8月7日	28.5	35.7	21.8	11.1	0.0	
8月8日	26.4	33.1	22.6	5.0	0.5	上葉収穫

表－2 官能検査結果

供試着位	調査結果
中葉	ストロビーフロアブル 3,000倍希釈液、180ℓ/10a、収穫17日前および収穫10日前の茎葉散布2回処理で、喫味に対する影響は認められなかった。
上葉	ストロビーフロアブル 3,000倍希釈液、180ℓ/10a、収穫19日前および収穫10日前の茎葉散布2回処理で、喫味に対する影響は認められなかった。
検査員	中山武美、青木優作、菊池将浩、内藤秀明、山田弘幸、石井浩信、芳賀正喜、中島周、松田征大、川村壽証、岸千恵、岡田徳馬、山田栞

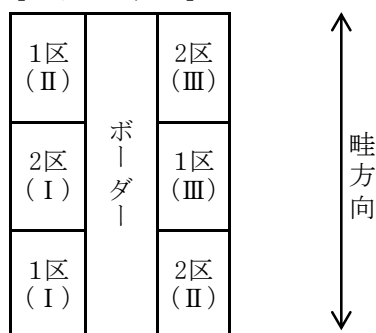
I 農 薬 の 部

2 植物成長調節剤

注) 試験区別で○印が付いた農薬は、比較対照農薬である。

- 1 試験対象 薬害
- 2 供試器材 バスタ液剤(使用量変更) (BASFジャパン)
 - ・有効成分 グルホシネート 18.5%
 - ・Lot No. PD-20B00001-108489
- 3 試験実施機関 日本たばこ産業株式会社 西日本原料本部 (担当者:本 晃伸、小暮 謙仁)
- 4 試験実施場所 熊本県合志市(ひのくにふれあいセンター)
- 5 試験方法
 - 1) 供試品種 第1黄色種 コーকার319
 - 2) 試験区別
 - 1区 無処理
 - 2区 バスタ液剤 500 mL/10a 1回 雑草茎葉散布
 - 3) 供試面積 各区 1.0 a(0.33 a×3反復)合計 2.0 a

【試験区配置図】



- 4) 処理方法・時期

2区は、3月3日(移植10日前)にマルチの裾をはがし、所定量の薬液を100ℓ/10aの水で希釈したのち、肩掛け電池式噴霧器で雑草の茎葉および畦面、畦間に均一に散布した。散布後にマルチの裾を再び下ろした。また、1区は同量の水を散布した。
- 5) 調査方法・時期

たばこ耕作資材試験実施要領に基づき、3月23日(移植10日後)、4月14日(移植32日後、大土寄期)の計2回の薬害発生調査を行った。また、4月14日(移植32日後)および5月18日(移植66日後、開花時期)に生育調査を実施した。
- 6) 試験ほ地の概要

地目	地勢	土壌種類	土性	耕土の深さ	排水の良否
畑	平坦	淡色黒ボク土	壤土	20 ^{cm}	普通

7) 耕種概要

播種	仮植	施肥・ 畦立て	移植	マルチ 除去	心止	栽培 形式
月日 1.30	月日 2.19	月日 1.20	月日 3.13	全期間 被覆	月日 5.20	折衷 マルチ

6 試験成績

表-1 処理後の気象(菊池アメダスポイント)

年月日	平均 気温	最高 気温	最低 気温	日照 時間	降水量	備考
	℃	℃	℃	h	mm	
2021.3. 3	7.7	14.8	2.2	10.2	0.0	薬剤散布
4	10.0	19.1	1.1	1.4	4.0	
5	15.3	20.3	12.1	1.1	11.0	
6	13.0	17.4	9.8	1.0	0.0	
7	9.3	10.5	8.5	0.0	3.5	
8	10.9	18.5	5.6	7.4	0.0	
9	9.5	15.6	4.1	0.6	0.0	
10	11.5	21.0	1.4	10.9	0.0	
11	12.1	20.2	2.5	6.7	0.0	
12	14.4	16.9	12.4	0.0	6.5	
13	11.6	16.4	5.2	4.0	0.5	
14	8.9	16.0	1.8	8.2	0.0	
15	10.6	18.9	2.8	10.2	0.0	
16	14.7	18.4	8.1	0.0	12.5	
17	15.5	22.6	10.1	8.3	0.0	
18	15.3	23.8	5.8	10.5	0.0	
19	16.5	23.6	10.9	3.3	0.0	
20	17.7	21.2	15.6	0.0	7.5	
21	13.1	16.9	8.5	0.3	4.0	
22	7.3	12.7	2.4	8.0	0.0	移植
23	8.8	17.3	0.3	11.3	0.0	
24	11.8	19.4	2.1	10.3	0.0	
25	15.1	23.2	7.6	8.8	0.0	
26	14.3	25.6	3.6	10.6	0.0	
27	16.4	25.9	6.3	9.4	0.0	
28	14.6	17.5	9.1	0.9	28.0	
29	14.3	22.0	6.5	7.5	0.0	
30	15.4	22.5	10.6	5.2	0.0	
31	15.2	24.2	6.8	7.6	0.0	
2021.4. 1	17.7	26.3	8.7	8.9	0.0	薬害発生調査
2	20.1	25.2	15.4	2.7	0.0	
3	21.2	25.8	17.1	7.6	0.0	
4	16.1	19.3	13.1	0.0	7.0	
5	13.1	18.6	8.7	6.7	0.0	
6	12.7	21.3	6.0	11.2	0.0	

表－1 処理後の気象(菊池アメダスポイント)(続き)

年月日	平均 気温	最高 気温	最低 気温	日照 時間	降水量	備考
2021.4. 7	13.6	23.8	3.3	11.7	0.0	薬害発生調査、生育調査
8	14.1	21.8	8.6	5.6	0.0	
9	14.3	23.2	5.5	10.6	0.0	
10	14.3	22.3	5.6	10.6	0.0	
11	14.7	24.3	3.6	11.6	0.0	
12	16.3	21.2	9.1	1.0	3.0	
13	16.6	20.2	13.1	1.1	4.5	
14	12.3	18.2	5.7	8.7	0.0	
15	12.8	21.9	1.7	11.5	0.0	
16	15.1	19.1	9.3	0.3	0.0	
17	14.8	21.3	9.2	3.6	18.5	
18	10.6	17.0	4.6	9.5	0.0	
19	12.2	21.5	2.3	12.2	0.0	
20	15.5	26.2	4.4	12.5	0.0	
21	18.7	30.4	8.1	12.0	0.0	
22	20.8	31.3	11.4	9.3	0.0	
23	20.1	27.0	12.7	3.3	0.0	
24	20.1	27.2	15.5	7.8	0.0	
25	18.4	26.9	10.8	12.1	0.0	
26	16.7	25.4	8.5	12.4	0.0	
27	16.7	24.6	6.9	3.0	0.0	
28	17.5	22.4	14.9	0.5	17.0	
29	15.7	19.4	12.4	1.9	51.5	
30	17.1	23.8	11.4	10.0	0.0	
2021.5. 1	16.6	22.7	11.2	3.0	2.5	生育調査
2	11.9	18.2	6.5	6.0	0.0	
3	13.7	22.6	3.6	12.3	0.0	
4	17.3	23.2	8.3	5.3	1.0	
5	17.7	23.7	10.8	5.8	39.5	
6	17.4	27.4	6.3	12.3	0.0	
7	17.5	21.6	15.5	2.3	1.0	
8	19.4	22.2	15.5	0.0	0.0	
9	20.8	26.2	15.8	9.4	0.0	
10	20.7	28.8	13.1	12.2	0.0	
11	7.3	26.4	16.0	1.2	0.0	
12	19.6	21.7	18.0	0.0	19.5	
13	21.8	27.3	17.7	2.7	0.0	
14	23.8	29.8	18.1	6.9	0.0	
15	22.0	24.4	21.2	0.0	47.5	
16	25.2	29.8	21.9	0.1	8.5	
17	21.9	24.3	19.5	0.0	57.0	
18	19.5	21.7	18.3	0.0	6.5	

表－2 大土寄時期生育調査結果(4月14日)

試験区別	反復	草丈	地上 葉数	最大葉				備考
				葉長	葉幅	位置	葉色	
1区 無処理	I	cm 29.2	枚 10.3	cm 36.5	cm 16.7	枚目 4.2	7.0	斉一
	II	30.9	10.5	39.0	18.5	4.0	7.0	
	III	28.3	10.9	37.7	18.2	4.8	7.1	
	調査株 平均	29.5	10.6	37.7	17.8	4.3	7.0	
2区 バスタ液剤 500 mL/10a	I	31.3	10.1	37.2	20.6	3.9	7.2	斉一
	II	25.1	10.3	37.6	17.6	3.6	7.2	
	III	28.0	10.5	37.8	18.7	4.3	7.1	
	調査株 平均	28.1	10.3	37.5	19.0 ⁺	3.9	7.1 ⁺	

注) 10本以上の平均値で表示。葉色(最大葉)はカラスケール値。

処理区-無処理区間での有意差検定(*t*検定)結果を表示する

(+/-:5%水準で有意差あり、++/-:1%水準で有意差あり)。

表－3 開花時期生育調査結果(5月18日)

試験区別	反復	草丈	地上 葉数	最大葉				備考
				葉長	葉幅	位置	葉色	
1区 無処理	I	cm 131.0	枚 23.5	cm 65.8	cm 28.4	枚目 12.9	8.8	斉一
	II	130.1	24.2	65.1	28.4	11.3	9.0	
	III	129.4	22.3	66.2	27.2	12.8	8.9	
	調査株 平均	130.2	23.3	65.7	28.0	12.3	8.9	
2区 バスタ液剤 500 mL/10a	I	139.2	23.9	67.5	29.2	12.0	8.8	斉一
	II	126.7	22.9	66.1	28.0	13.7	8.8	
	III	134.2	24.1	66.6	29.5	11.3	8.9	
	調査株 平均	133.4	23.6	66.7	28.9	12.3	8.8	

注) 10本以上の平均値で表示。葉色(最大葉)はカラスケール値。

処理区-無処理区間での有意差検定(*t*検定)結果を表示する

(+/-:5%水準で有意差あり、++/-:1%水準で有意差あり)。

表－4 薬害発生調査結果

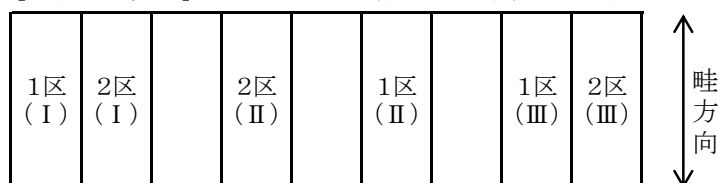
調査 月日	試験区別	反復	調査 株数	生育不良株数			症状
				軽症	中症	重症	
2021. 3.23	1区 無処理	I	本 33	本 0	本 0	本 0	
		II	34	0	0	0	
		III	33	0	0	0	
		合計	100	0	0	0	
	2区 バスタ液剤 500 mL/10a	I	33	0	0	0	無し
		II	34	0	0	0	
		III	33	0	0	0	
		合計	100	0	0	0	
2021. 4.14	1区 無処理	I	33	0	0	0	
		II	34	0	0	0	
		III	33	0	0	0	
		合計	100	0	0	0	
	2区 バスタ液剤 500 mL/10a	I	33	0	0	0	無し
		II	33	0	0	0	
		III	34	0	0	0	
		合計	100	0	0	0	

7 結果の要約

- ・バスタ液剤 植付10日前 500ml/10a 1回 雑草茎葉散布において、薬害の発生は認められなかった。
- ・生育調査において、大土寄期で最大葉の葉幅と葉色に有意差が見られたが、開花時期で全調査項目に差は見られなかった。

- 1 試験対象 薬害
- 2 供試器材 バスタ液剤(使用量変更)(BASFジャパン)
 ・有効成分 グルホシネート 18.5%
 ・Lot No. 10076939
- 3 試験実施機関 福島県農業総合センター(担当者:齋藤正明)
- 4 試験実施場所 福島県郡山市(センター内本畑)
- 5 試験方法
 - 1) 供試品種 第1バーレー種 たいへい
 - 2) 試験区別
 - 1区 無処理
 - 2区 バスタ液剤 植付10日前まで 500 mL/10a 1回 雑草茎葉散布
 - 3) 供試面積 各区 1.32a(0.44 a×3反復)合計 2.64 a

【試験区配置図】※空白の区は同剤の大土寄期散布試験に使用



- 4) 処理方法・時期
 2区は4月16日(移植10日前)にマルチを外した後、所定量の薬液を100 L/10aの水で希釈し、背負式動力噴霧器を用いて畦面、畦間に均一に散布した。
 散布後に再度マルチをかけた。
- 5) 調査方法・時期
 たばこ耕作資材試験実施要領に基づき、薬害発生調査は、2区は5月3日(移植後7日目)、5月10日(移植後14日目)および5月25日(移植後29日目)の計3回実施した。
 また、生育調査は、2区は5月28日(植付後32日目)および6月23日(植付後58日目)の計2回実施した。
- 6) 試験ほ地の概要

地目	地勢	土壌種類	土性	耕土の深さ	排水の良否
畑	平坦	灰色低地土	壤土	30 ^{cm}	やや否

- 7) 耕種概要

播種	仮植	施肥・畦立て	移植	マルチ除去	心止	栽培形式
月日	月日	月日	月日	全期間被覆	月日	折衷マルチ
3.12	3.30	4.8	4.26		6.25 6.30	

6 試験成績

表-1 処理後の気象(郡山アメダスポイント)

年月日	平均 気温	最高 気温	最低 気温	日照 時間	降水量	備考
	℃	℃	℃	h	mm	
2021.4. 16	10.5	16.0	0.5	4.1	0	薬剤散布
17	12.0	13.7	10.6	0	9.0	
18	10.3	14.4	7.0	7.8	13.5	
19	9.4	13.6	3.6	2.8	0	
20	12.7	21.3	0.7	12.6	0	
21	13.2	18.0	8.8	12.7	0	
22	12.9	20.3	5.4	12.8	0	
23	10.2	19.2	0.6	12.8	0	
24	12.9	23.1	2.0	9.3	0	
25	11.3	16.7	5.6	4.5	0	
26	7.7	13.0	2.4	12.8	0	移植
27	10.0	19.2	-0.4	11.6	0	
28	13.9	21.8	4.4	6.0	0	
29	12.7	14.7	11.5	0	35.0	
30	13.2	18.8	10.2	6.7	10.0	
2021.5. 1	13.5	18.5	7.8	4.3	8.0	
2	11.3	17.1	7.5	5.4	8.0	
3	10.8	13.5	7.4	1.4	0.5	薬害発生調査
4	15.5	21.5	9.6	12.1	0	
5	13.9	17.8	8.6	1.4	3.5	
6	17.3	23.2	12.1	11.3	0	
7	15.7	21.5	10.8	2.0	0	
8	17.5	22.6	9.3	8.1	0	
9	15.7	23.2	11.5	4.3	0	
10	14.6	18.7	11.0	5.9	0	薬害発生調査
11	14.2	18.9	9.5	9.5	0	
12	13.9	22.0	5.8	10.4	0	
13	15.3	19.2	10.4	1.9	0	
14	19.1	25.4	14.0	9.3	0	
15	16.7	22.0	10.8	0.5	0	
16	19.0	23.1	16.4	3.1	0	
17	20.4	25.6	17.6	0.1	4.5	
18	18.4	23.1	14.9	0.7	5.5	
19	16.7	19.2	14.9	0	5.5	
20	19.0	25.4	14.8	7.5	5.5	
21	17.2	20.5	14.6	0	19.0	薬害発生調査
22	16.2	17.8	15.1	0	9.5	
23	16.2	19.1	13.7	2.1	0.5	
24	20.0	25.9	14.1	5.1	0	
25	18.9	23.2	14.4	7.3	1.0	
26	16.2	19.5	13.3	6.8	0	
27	15.7	17.5	14.5	0	11.5	
28	19.5	25.3	14.4	8.5	0	生育調査
29	18.6	24.1	15.0	6.3	0	
30	16.8	20.0	13.4	9.7	0	
31	17.9	25.5	11.8	10.9	0	

表－1 処理後の気象(郡山アメダスポイント)(続き)

年月日	平均 気温	最高 気温	最低 気温	日照 時間	降水量	備考
2021.6. 1	18.5	25.2	13.8	9.5	0	
2	20.5	25.5	16.1	8.0	0	
3	20.6	25.8	15.8	8.4	0	
4	19.1	20.6	18.0	0	23.0	
5	20.7	26.3	16.5	8.6	0	
6	21.3	26.5	16.5	2.4	0	
7	22.8	29.4	17.8	5.8	0	
8	20.6	25.7	16.1	2.2	0	
9	22.7	28.8	17.4	11.7	0	
10	22.5	30.7	15.7	11.1	0	
11	22.4	29.3	18.1	7.6	0	
12	22.3	28.1	17.8	5.8	0	
13	22.6	29.9	19.2	4.7	36.0	
14	21.3	27.3	18.5	4.0	0	
15	20.7	28.5	17.3	8.7	0	
16	19.6	27.3	16.9	1.5	7.5	
17	19.6	23.3	16.0	1.8	0	
18	20.5	27.9	14.0	8.4	0	
19	18.4	20.4	17.5	0	18.0	
20	20.4	24.9	16.5	3.0	0	
21	21.4	27.5	15.2	10.2	0	
22	21.9	27.2	18.7	1.7	0	
23	20.2	24.0	17.8	0	0	生育調査

表－2 大土寄時期生育調査結果(5月28日)

試験区別	反復	草丈	地上 葉数	最大葉				備考
				葉長	葉幅	位置	葉色	
1区 無処理	I	cm	枚	cm	cm	枚目	7.0	
	II	15.1	15.2	41.4	20.7	4.6	7.0	
	III	14.6	15.1	40.0	20.6	4.8	7.0	
	調査株 平均	13.1	14.5	38.7	19.8	5.0	7.2	
2区 バスタ液剤 500 mL/10a	I	14.3	14.9	40.0	20.4	4.8	7.1	
	II	14.1	14.9	40.5	20.9	4.7	7.1	
	III	15.3	14.6	41.0	20.8	4.7	7.0	
	調査株 平均	13.3	14.7	40.4	20.4	4.8	7.0	生育には明らかな差が見られなかった。
	調査株 平均	14.2	14.7	40.6	20.7	4.7	7.0	

注) 10本以上の平均値で表示。葉色(最大葉)はカラースケール値。

表-3 開花時生育調査結果(6月23日)

試験区別	反復	草丈	地上 葉数	最大葉				備考
				葉長	葉幅	位置	葉色	
1区 無処理	I	cm 134.1	枚 24.6	cm 61.3	cm 26.6	枚目 7.7	5.6	
	II	139.8	24.3	60.5	28.3	7.8	6.1	
	III	138.8	24.6	61.7	26.9	8.4	6.3	
	調査株 平均	137.6	24.5	61.2	27.2	8.0	6.0	
2区 バスタ液剤 500 mL/10a	I	128.9	25.2	61.6	27.9	7.5	6.2	生育に明らかな 差が見られな かった。
	II	133.5	24.7	61.7	27.5	7.3	6.0	
	III	139.6	25.0	62.7	28.9	8.1	6.1	
	調査株 平均	134.0	25.0	62.0	28.1	7.6	6.1	

注) 10本以上の平均値で表示。葉色(最大葉)はカールスケール値。

表-4 薬害発生調査結果

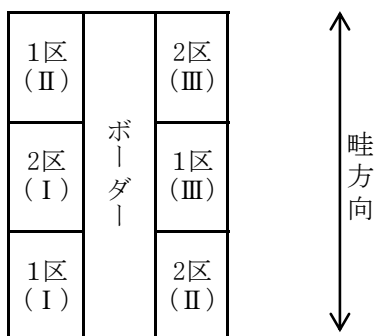
調査 月日	試験区別	反復	調査 株数	生育不良株数			症状
				軽症	中症	重症	
2021. 5.3	1区 無処理	I	本 96	本 0	本 0	本 0	
		II	96	0	0	0	
		III	96	0	0	0	
		合計	288	0	0	0	
	2区 バスタ液剤 500 mL/10a	I	96	0	0	0	無し
		II	96	0	0	0	
		III	96	0	0	0	
		合計	288	0	0	0	
2021. 5.10	1区 無処理	I	96	0	0	0	
		II	96	0	0	0	
		III	96	0	0	0	
		合計	288	0	0	0	
	2区 バスタ液剤 500 mL/10a	I	96	0	0	0	無し
		II	96	0	0	0	
		III	96	0	0	0	
		合計	288	0	0	0	
2021. 5.25	1区 無処理	I	96	0	0	0	
		II	96	0	0	0	
		III	96	0	0	0	
		合計	288	0	0	0	
	2区 バスタ液剤 500 mL/10a	I	96	0	0	0	無し
		II	96	0	0	0	
		III	96	0	0	0	
		合計	288	0	0	0	

7 結果の要約

- ・ バスタ液剤 植付10日前の500 mL/10a 1回 雑草茎葉散布で、薬害の発生は認められなかった。
- ・ 大土寄時期および開花時の生育に、区間の明らかな差が見られなかった。

- 1 試験対象 薬害
- 2 供試器材 バスタ液剤(使用量変更) (BASFジャパン)
 - ・有効成分 グルホシネート 18.5%
 - ・Lot No. PD-20B00001-108489
- 3 試験実施機関 日本たばこ産業株式会社 西日本原料本部(担当者:本 晃伸、小暮 謙仁)
- 4 試験実施場所 熊本県合志市(ひのくにふれあいセンター)
- 5 試験方法
 - 1) 供試品種 第1黄色種 コーকার319
 - 2) 試験区別
 - 1区 無処理
 - 2区 バスタ液剤 500 mL/10a 1回 雑草茎葉散布
 - 3) 供試面積 各区 1.0 a(0.33 a×3反復)合計 2.0 a

【試験区配置図】



- 4) 処理方法・時期

2区は4月14日(移植32日後、大土寄期)にマルチの裾をはがし、所定量の薬液を1000/10aの水で希釈したのち、肩掛け電池式噴霧器で雑草の茎葉および畦面、畦間に均一に散布した。散布後にマルチの裾を再び下ろした。
また、1区は同量の水を散布した。
- 5) 調査方法・時期

たばこ耕作資材試験実施要領に基づき、4月22日(移植40日後)および5月18日(移植66日後)の計2回の薬害発生調査を行った。また、4月14日(移植32日後、大土寄期散布前)および5月18日(移植66日後、開花時期)に生育調査を実施した。
- 6) 試験ほ地の概要

地目	地勢	土壌種類	土性	耕土の深さ	排水の良否
畑	平坦	淡色黒ボク土	壤土	^{cm} 20	普通

7) 耕種概要

播種	仮植	施肥・ 畦立て	移植	マルチ 除去	心止	栽培 形式
月日 1.30	月日 2.19	月日 1.20	月日 3.13	全期間 被覆	月日 5.20	折衷 マルチ

6 試験成績

表-1 処理後の気象(菊池アメダスポイント)

年月日	平均 気温	最高 気温	最低 気温	日照 時間	降水量	備考
	℃	℃	℃	h	mm	
2021.4. 14	12.3	18.2	5.7	8.7	0.0	薬剤散布、生育調査
15	12.8	21.9	1.7	11.5	0.0	
16	15.1	19.1	9.3	0.3	0.0	
17	14.8	21.3	9.2	3.6	18.5	
18	10.6	17.0	4.6	9.5	0.0	
19	12.2	21.5	2.3	12.2	0.0	
20	15.5	26.2	4.4	12.5	0.0	
21	18.7	30.4	8.1	12.0	0.0	
22	20.8	31.3	11.4	9.3	0.0	
23	20.1	27.0	12.7	3.3	0.0	薬害発生調査
24	20.1	27.2	15.5	7.8	0.0	
25	18.4	26.9	10.8	12.1	0.0	
26	16.7	25.4	8.5	12.4	0.0	
27	16.7	24.6	6.9	3.0	0.0	
28	17.5	22.4	14.9	0.5	17.0	
29	15.7	19.4	12.4	1.9	51.5	
30	17.1	23.8	11.4	10.0	0.0	
2021.5. 1	16.6	22.7	11.2	3.0	2.5	
2	11.9	18.2	6.5	6.0	0.0	
3	13.7	22.6	3.6	12.3	0.0	
4	17.3	23.2	8.3	5.3	1.0	
5	17.7	23.7	10.8	5.8	39.5	
6	17.4	27.4	6.3	12.3	0.0	
7	17.5	21.6	15.5	2.3	1.0	
8	19.4	22.2	15.5	0.0	0.0	
9	20.8	26.2	15.8	9.4	0.0	
10	20.7	28.8	13.1	12.2	0.0	
11	7.3	26.4	16.0	1.2	0.0	
12	19.6	21.7	18.0	0.0	19.5	
13	21.8	27.3	17.7	2.7	0.0	
14	23.8	29.8	18.1	6.9	0.0	

表－1 処理後の気象(菊池アメダスポイント)(続き)

年月日	平均 気温	最高 気温	最低 気温	日照 時間	降水量	備考
2021.5. 15	22.0	24.4	21.2	0.0	47.5	薬害発生調査、生育調査
16	25.2	29.8	21.9	0.1	8.5	
17	21.9	24.3	19.5	0.0	57.0	
18	19.5	21.7	18.3	0.0	6.5	

表－2 大土寄時期生育調査結果(4月14日)

試験区別	調査 株数	草丈	地上 葉数	最大葉				備考
				葉長	葉幅	位置	葉色	
1区 無処理	本 10	cm 26.6	枚 10.3	cm 36.6	cm 17.7	枚目 3.1	7.1	斉一
2区 バスタ液剤 500 mL/10a	10	26.8	10.2	37.8	18.9	3.0	7.3	斉一

注) 10本以上の平均値で表示。葉色(最大葉)はカレースケール値。

処理区-無処理区間での有意差検定(t 検定)結果を表示する
(+/-:5%水準で有意差あり、++/-:1%水準で有意差あり)。

表－3 開花時期生育調査結果(5月18日)

試験区別	反復	草丈	地上 葉数	最大葉				備考
				葉長	葉幅	位置	葉色	
1区 無処理	I	cm 131.1	枚 24.0	cm 62.9	cm 27.7	枚目 12.1	8.8	斉一
	II	134.0	24.1	65.2	27.2	13.6	8.8	
	III	127.9	24.2	64.1	27.4	13.1	8.8	
	調査株 平均	131.0	24.1	64.1	27.4	12.9	8.8	
2区 バスタ液剤 500 mL/10a	I	131.4	23.5	63.6	28.0	11.8	8.6	斉一
	II	122.4	24.0	62.3	25.0	14.0	8.8	
	III	130.6	24.4	67.5	29.8	13.3	9.0	
	調査株 平均	128.1	24.0	64.5	27.6	13.0	8.8	

注) 10本以上の平均値で表示。葉色(最大葉)はカレースケール値。

処理区-無処理区間での有意差検定(t 検定)結果を表示する
(+/-:5%水準で有意差あり、++/-:1%水準で有意差あり)。

表－4 薬害発生調査結果

調査 月日	試験区別	反復	調査 株数	生育不良株数			症状
				軽症	中症	重症	
2021. 4.22	1区 無処理	I	本 34	本 0	本 0	本 0	
		II	34	0	0	0	
		III	34	0	0	0	
		合計	102	0	0	0	
	2区 バスタ液剤 500 mL/10a	I	35	0	0	0	無し
		II	34	0	0	0	
		III	34	0	0	0	
		合計	103	0	0	0	
2021. 5.18	1区 無処理	I	34	0	0	0	
		II	34	0	0	0	
		III	34	0	0	0	
		合計	102	0	0	0	
	2区 バスタ液剤 500 mL/10a	I	35	0	0	0	無し
		II	34	0	0	0	
		III	34	0	0	0	
		合計	103	0	0	0	

7 結果の要約

- ・バスタ液剤 大土寄期 500ml/10a 1回 雑草茎葉散布において、薬害の発生は認められなかった。
- ・大土寄期及び開花時期の生育調査において、無処理区とバスタ液剤処理区間に有意差は見られなかった

- 1 試験対象 薬害
- 2 供試器材 バスタ液剤(使用量変更)(BASFジャパン)
 - ・有効成分 グルホシネート 18.5%
 - ・Lot No. 10076939
- 3 試験実施機関 福島県農業総合センター(担当者:齋藤正明)
- 4 試験実施場所 福島県郡山市(センター内本畑)
- 5 試験方法
 - 1) 供試品種 第1バーレー種 たいへい
 - 2) 試験区別
 - 1区 無処理
 - 2区 バスタ液剤 大土寄期 500 mL/10a 1回 雑草茎葉散布
 - 3) 供試面積 各区 1.32a(0.44 a×3反復)合計 2.64 a

【試験区配置図】※空白の区は同剤の植付10日前散布試験に使用

1区 (Ⅰ)		2区 (Ⅰ)		2区 (Ⅱ)	1区 (Ⅱ)	2区 (Ⅲ)	1区 (Ⅲ)	
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; height: 80px; margin: 0 5px;"></div> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-align: center;">畦 方 向</div> </div>								

- 4) 処理方法・時期

2区は大土寄期の5月25日(移植後29日目)にタバコ茎葉部への飛散防止のためマルチの裾を上げてタバコを覆った後、所定量の薬液を100ℓ/10aの水で希釈し、背負式動力噴霧器を用いて雑草の茎葉および畦面、畦間にムラなく均一に散布した。
散布後にマルチの裾を再び下した。
- 5) 調査方法・時期

たばこ耕作資材試験実施要領に基づき、薬害発生調査は、6月1日(薬剤散布後7日目)、6月8日(薬剤散布後14日目)および6月23日(薬剤散布後29日目)の計3回実施した。
また、生育調査は、6月23日(薬剤散布後29日目)に実施した。
- 6) 試験ほ地の概要

地目	地勢	土壌種類	土性	耕土の深さ	排水の良否
畑	平坦	灰色低地土	壤土	30 ^{cm}	やや否

- 7) 耕種概要

播種	仮植	施肥・畦立て	移植	マルチ除去	心止	栽培形式
月日 3.12	月日 3.30	月日 4.8	月日 4.26	全期間被覆	月日 6.25 6.30	折衷マルチ

6 試験成績

表－1 処理後の気象(郡山アメダスポイント)

年月日	平均 気温	最高 気温	最低 気温	日照 時間	降水量	備考
	℃	℃	℃	h	mm	
2021.5. 25	18.9	23.2	14.4	7.3	1.0	薬剤散布(散布の11時間後に降雨)
26	16.2	19.5	13.3	6.8	0	
27	15.7	17.5	14.5	0	11.5	
28	19.5	25.3	14.4	8.5	0	
29	18.6	24.1	15.0	6.3	0	
30	16.8	20.0	13.4	9.7	0	
31	17.9	25.5	11.8	10.9	0	
2021.6. 1	18.5	25.2	13.8	9.5	0	薬害発生調査
2	20.5	25.5	16.1	8.0	0	
3	20.6	25.8	15.8	8.4	0	
4	19.1	20.6	18.0	0	23.0	
5	20.7	26.3	16.5	8.6	0	
6	21.3	26.5	16.5	2.4	0	
7	22.8	29.4	17.8	5.8	0	
8	20.6	25.7	16.1	2.2	0	薬害発生調査
9	22.7	28.8	17.4	11.7	0	
10	22.5	30.7	15.7	11.1	0	
11	22.4	29.3	18.1	7.6	0	
12	22.3	28.1	17.8	5.8	0	
13	22.6	29.9	19.2	4.7	36.0	
14	21.3	27.3	18.5	4.0	0	
15	20.7	28.5	17.3	8.7	0	
16	19.6	27.3	16.9	1.5	7.5	
17	19.6	23.3	16.0	1.8	0	
18	20.5	27.9	14.0	8.4	0	
19	18.4	20.4	17.5	0	18.0	
20	20.4	24.9	16.5	3.0	0	
21	21.4	27.5	15.2	10.2	0	
22	21.9	27.2	18.7	1.7	0	
23	20.2	24.0	17.8	0	0	薬害発生調査、生育調査

表-2 開花時生育調査結果(6月23日)

試験区別	反復	草丈 cm	地上 葉数 枚	最大葉				備考
				葉長 cm	葉幅 cm	位置 枚目	葉色	
1区 無処理	I	134.1	24.6	61.3	26.6	7.7	5.6	
	II	139.8	24.3	60.5	28.3	7.8	6.1	
	III	138.8	24.6	61.7	26.9	8.4	6.3	
	調査株 平均	137.6	24.5	61.2	27.2	8.0	6.0	
2区 バスタ液剤 500 mL/10a	I	131.7	24.5	62.8	27.8	7.3	6.0	生育には明らかな 差が見られなかった。
	II	131.5	23.6	61.2	27.8	7.5	6.0	
	III	133.7	24.9	59.7	26.8	8.5	6.1	
	調査株 平均	132.3	24.3	61.2	27.5	7.8	6.0	

注) 10本以上の平均値で表示。葉色(最大葉)はカラスケール値。

表-3 薬害発生調査結果

調査 月日	試験区別	反復	調査 株数	生育不良株数			症状
				軽症	中症	重症	
2021. 6.1	1区 無処理	I	本 96	本 0	本 0	本 0	
		II	96	0	0	0	
		III	96	0	0	0	
		合計	288	0	0	0	
	2区 バスタ液剤 500 mL/10a	I	96	0	0	0	無し
		II	96	0	0	0	
		III	96	0	0	0	
		合計	288	0	0	0	
2021. 6.8	1区 無処理	I	96	0	0	0	
		II	96	0	0	0	
		III	96	0	0	0	
		合計	288	0	0	0	
	2区 バスタ液剤 500 mL/10a	I	96	0	0	0	無し
		II	96	0	0	0	
		III	96	0	0	0	
		合計	288	0	0	0	
2021. 6.23	1区 無処理	I	96	0	0	0	
		II	96	0	0	0	
		III	96	0	0	0	
		合計	288	0	0	0	
	2区 バスタ液剤 500 mL/10a	I	96	0	0	0	無し
		II	96	0	0	0	
		III	96	0	0	0	
		合計	288	0	0	0	

7 結果の要約

- ・ バスタ液剤 大土寄期の500 mL/10a 1回 雑草茎葉散布で、薬害の発生は認められなかった。
- ・ 開花時の生育に、区間の明らかな差が見られなかった。

- 1 試験対象 官能検査
- 2 供試器材 バスタ液剤(使用量変更) (BASFジャパン)
・有効成分 グルホシネート 18.5%
・Lot No. PD-20B00001-108489
- 3 試験実施機関 日本たばこ産業株式会社 西日本原料本部(担当者:本 晃伸、小暮 謙仁)
- 4 試料採取場所 熊本県合志市(ひのくにふれあいセンター)
- 5 試験方法

1) 供試品種 第1黄色種 コーカ-319

2) 試験区別および供試面積

試験区別	区 別	濃 度	施用量	処理回数	供試面積
1 区	無処理	—	—	—	1.0a
2 区	バスタ液剤(使用量 変更)	—	500ml/10a	雑草茎葉散布 1回	1.0a

3) 処理方法

2区は、4月14日(移植約1か月後、大土寄期)にタバコ茎葉部への飛散防止のためマルチの裾をはがし、所定量の薬液を1000/10aの水で希釈したのち、肩掛け電池式噴霧器で雑草の茎葉および畦面、畦間に均一に散布した。散布後にマルチの裾を再び下ろした。また、1区は、同量の水を散布した。

4) 試験ほ地の概要

地 目	地 勢	土壌種類	土 性	耕土の 深さ	排水の 良否
畑	平坦	淡色黒ボク土	壤土	20 ^{cm}	良

5) 栽培概要

- (1) 施肥量 N :11.9、P₂O₅ :29.2、K₂O :23.7、堆肥 : 1200 kg/10a+葉力20kg/10a
- (2) 畦株間距離 117cm×42cm (2,035本/10a)
- (3) 被覆方法 高畦折衷マルチ(配色シルバー、全期間)、不織布(3月17日～4月8日)
- (4) 移植月日 3月13日
- (5) 土寄月日 4月18日
- (6) 心止月日 5月21日

6) 供試農薬以外に使用した薬剤

試験区別	農 薬 名	希釈倍数	施用量	施用月日
各区共通	コンタクト乳剤	40倍	8ml/株	5月13日
各区共通	コンタクト乳剤	40倍	13ml/株	5月23日
各区共通	イエローリボンS乳剤	50倍	13ml/株	6月10日
各区共通	イエローリボンS乳剤	50倍	13ml/株	7月1日

・コンタクト乳剤、イエローリボンS乳剤ともわき芽抑制のため使用。

7) 試料採取

試料の着位	試験区別	薬 剤 処 理※		試 料 採 取		薬剤処理から収穫まで		
		月 日	天 候	月 日	天 候	日 数 日	降水日数 日	降水量 mm
中 葉	各区 共通	4月14日	晴	6月16日	雨	64	24	578.0
上 葉	各区 共通			7月12日	曇	90	36	784.5

※1区は、薬剤処理なし。

8) 収穫後の処理方法 産地慣行乾燥

9) 官能検査 2021年12月15日から12月16日の間、日本たばこ産業(株)西日本原料本部において、調査を行った。

6 試験結果

表－1 薬剤処理から試料採取までの気象表(菊池アメダスポイント)

月 日	平均気温 ℃	平均最高 気温 ℃	平均最低 気温 ℃	日照時間 h	降水量 mm	摘要
4月中旬	13.3	20.7	5.3	58.3	18.5	雑草茎葉散布(4月14日)
4月下旬	18.2	25.8	11.3	72.3	68.5	
5月上旬	17.3	23.7	10.7	68.6	44.0	
5月中旬	21.8	25.6	18.7	17.8	255.0	
5月下旬	19.8	25.5	14.2	60.4	94.0	
6月上旬	23.1	28.8	17.5	58.5	72.0	中葉収穫(6月16日)
6月中旬	24.1	29.2	19.9	35.3	50.5	
6月下旬	25.0	31.2	19.7	70.2	6.5	
7月上旬	26.9	30.6	24.3	19.9	152.5	上葉収穫(7月12日)
7月中旬	26.1	31.5	22.2	1.9	23.0	

※4月中旬:4月14日～20日、7月中旬:7月11日～7月12日。

表－2 官能検査結果

供試着位	調査結果
中 葉	バスタ液剤 500ml/10a、大土寄期の雑草茎葉散布1回処理で、喫味に対する影響は認められなかった。
上 葉	バスタ液剤 500ml/10a、大土寄期の雑草茎葉散布1回処理で、喫味に対する影響は認められなかった。
検査員	瀧 浩昭、米田 基、家常 祐弥、川田 耕嗣、泉 拓夫、久富 浩介、恒吉 宏和、厚ヶ瀬 裕平、宮元 守、山倉 健太郎、小田 浩三、小島 慎之介、森田 貴文、西村 天志、岩佐 央基、小暮 謙仁、菅野 英斗、細川 花栄

- 1 試験対象 官能検査
- 2 供試器材名 バスタ液剤(使用量変更) (BASFジャパン)
・有効成分 グルホシネート 18.5%
・Lot No. 10076939
- 3 試験実施機関 福島県農業総合センター (担当者: 齋藤正明)
- 4 試料採取場所 福島県郡山市(センター内本畑)
- 5 試験区別および試験方法

- 1) 品種名 第1バーレー種 たいへい

- 2) 試験区別および供試面積

試験区別	区 別	濃 度	施用量	施用回数	供試面積
1 区	無処理	—	—	—	1.3a
2 区	バスタ液剤(使用量変更)	—	500ml/10a	雑草茎葉散布1回	1.3a

- 3) 処理方法

2区は、大土寄期の5月25日(移植後29日目)にタバコ茎葉部へ飛散防止のためマルチの裾を上げてタバコを覆った後、所定量の薬液を100ℓ/10aの水で希釈したのちに、背負式動力噴霧器を用いて雑草の茎葉および畦面、畦間にムラなく均一に散布した。散布後にマルチの裾を再び下した。

- 4) 試験ほ地の概要

地目	地勢	土壌種類	土性	耕土の深さ	排水の良否
畑	平坦	灰色低地土	壤土	cm 30	やや否

- 5) 栽培概要

- (1) 施肥量 (kg/10a) N :14.0、P₂O₅ :26.0、K₂O :34.0、堆肥:2,000(kg/10a)
- (2) 畦株間距離 130cm×33cm (2,331本/10a)
- (3) 被覆方法 折衷マルチ(全期間)
- (4) 移植月日 2021年4月26日
- (5) 土寄月日 —
- (6) 心止月日 2021年6月25日、6月30日

- 6) 供試農薬以外に使用した薬剤

試験区別	農 薬 名	濃 度	施用量	施用月日
各区共通	オルトラン水和剤	1500倍	180L/10a	5月31日
各区共通	トレボン乳剤	2000倍	180L/10a	6月23日
各区共通	コンタクト	30倍	20mL/株	7月16日

・オルトラン水和剤およびトレボン乳剤はヨトウムシ防除のため使用。コンタクトはわき芽抑制のため使用。

7) 試料採取

試料の 着位	試験区別	薬 剤 処 理		試 料 採 取		薬剤処理から収穫までの		
		月 日	天 候	月 日	天 候	日 数 日	降水日数 日	降水量 mm
中 葉	各区 共通	5月25日	晴	7月12日	曇り	48	19	243.0
上 葉				8月6日	晴れ	73	30	336.5

8) 収穫後の処理方法 センター慣行乾燥

9) 官能検査 2021年12月17日から12月23日の間、日本たばこ産業(株)中日本地方原料本部および東日本原料本部において調査を行った。

6 試験結果

表-1 薬剤処理から試料採取までの気象表(郡山アメダスポイント)

月 日	平均気温 ℃	平均最高 気温 ℃	平均最低 気温 ℃	積算日照 時間 h	積算降水量 mm	摘要
5月下旬	17.7	22.2	13.8	49.5	12.5	雑草茎葉散布(5月25日)
6月上旬	20.9	30.7	13.8	67.7	23.0	
6月中旬	20.8	29.9	14.0	45.5	61.5	
6月下旬	21.0	29.3	15.2	36.8	34.5	
7月上旬	21.8	28.5	18.0	10.7	96.5	
7月中旬	25.0	35.2	19.5	70.3	34.0	中葉収穫(7月12日)
7月下旬	24.8	34.7	20.8	56.0	50.5	上葉収穫(8月6日)
8月上旬	27.4	34.1	23.1	62.5	24.0	

※5月下旬:5月25日～5月31日、8月上旬:8月1日～8月6日。

表-2 官能検査結果

供試着位	調査結果
中葉	バスタ液剤 500ml/10a 水100L希釈、大土寄期の雑草茎葉散布1回で、喫味に対する影響は認められなかった。
上葉	バスタ液剤 500ml/10a 水100L希釈、大土寄期の雑草茎葉散布1回で、喫味に対する影響は認められなかった。
検査員	信末 公孝、奥井 洋、久保田 健志、大川 直、柵 貴行、福田 竜也、加藤 元毅、鬼丸 直樹、中山 武美、青木 優作、菊池 将浩、内藤 秀明、石井 浩信、中島 周、松田 征太、川村 壽根、岡田 徳馬、山田 栞、岸 千恵、芳賀 正喜

第53号 付録の部

(その1) メーカー試験により2022年度試験を実施しないことに決定したもの

(その2) 理由書・見解書により2022年度試験を実施しないことに決定したもの

(その3) 農薬成績書審査

(その4) 変更申請の承認を受けた資器材(2021年4月～2022年3月)

第53号 付録の部(その1)

メーカー試験により2022年度試験を実施しないことに決定したもの

機械

生葉リフター<三州産業(株)>	43
-----------------------	----

第53号 付録の部(その2)

理由書・見解書により2022年度試験を実施しないことに決定したもの

機械

たばこ心止機<日本たばこ産業(株)>	49
ハンディ幹刈機<日本たばこ産業(株)>	54
静電ノズル<日本たばこ産業(株)>	59

第53号 付録の部(その3)

農業成績書審査(2020年～2021年)

殺菌剤

ストロビーフロアブル<BASFジャパン(株)>	64
-------------------------------	----

第53号 付録の部(その4)

変更申請の承認を受けた資器材(2020年4月～2021年3月)

機械

たばこ管理作業車<ヤンマーアグリ(株)鹿児島事業所>	74
----------------------------------	----

肥料

BK苦土高りん35号(トップリン)<(株)バイオケミカ>	78
------------------------------------	----

メーカー試験

資 材 名	生葉リフター (型式:AP1-LIFT)
試験対象	収穫作業性
処理年月日	2021年11月18日
試験を受託しない理由	<p>たばこ高架型作業車AP-1に収穫葉の荷上げ作業の労働負荷軽減を図るため、荷台に収穫葉を昇降するリフターを装着した仕様である。(作業補助装置)</p> <p>たばこ耕作資材試験に準拠した試験成績書があり、安全性の確認および有効性が判断できるため、2022年度たばこ耕作資材試験の必要はない。 よって、使用可である</p> <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">合 格</div>

たばこ耕作資材試験依頼書

住 所 891-0189 鹿児島県鹿児島市南栄四丁目11-2

会社名 三州産業株式会社

次のとおり試験を依頼いたします。

品 名 (型式等)		生葉リフター (型式:AP1-LIFT)
製 造 元 (住所・会社名)		三州産業株式会社 鹿児島県鹿児島市南栄四丁目11-2
特許または実用新案番号 (出願・公開・公告番号)		実願2021-2229、意願2021-12344
本 機 材 の 特 徴		収穫作業車(AP-1)に付帯する荷台に生葉を上げる為の作業補助装置
主な仕様	1)仕様の内容	・仕様書、主要諸元等 別紙添付
	2)図 面	・全体図、部分図等 別紙添付
	3)主 な 特 徴	・機能説明、取扱説明書等 別紙添付
既往の成績	1)タ バ コ	
	2)他 作 物	
試 験 依 頼 の 目 的		本作業機の作業性と安全性を確認
試験依頼の内容	方 法	本作業機を収穫作業車(AP-1)に装着し、作業性や安全性を確認する
	希望試験地および規模	南九州地方原料本部管内産地
備 考		

1. 試験対象名 収穫作業性
2. 供試器材名 生葉リフター (三州産業)
型式 AP1-LIFT
3. 試験実施機関名 三州産業株式会社 (担当:有留 大介)
4. 試験実施場所 鹿児島県穎娃町

5. 試験方法

- 1) 供試品種 第1黄色種 コーকার319

2) 試験区別

- 1区 対照 高架型作業車(AP-1) 5.0a
中葉系1回、本葉系1回収穫
- 2区 試験 高架型作業車(AP-1)+生葉リフター (型式AP1-LIFT) 5.0a
中葉系1回、本葉系1回収穫

3) 供試機の仕様および図面

仕様および図面の部 参照

4) は場条件

葉分	地目	土性	傾斜	畦溝の水分	畦株間距離	畦の形状			枕地幅
						畦長	畦高	畦溝幅	
					cm×cm	m	cm	cm	m
中葉系	畑	壤土	平坦	普通	118×42	53	33	50	2.65
本葉系	畑	壤土	平坦	普通	118×42	71	33	50	3.05

5) 収穫月日と収穫条件

葉分区分		収穫月日	収穫枚数	収穫重量	荷上げ回数
		月 日	枚/株	kg/包	回/畦
中葉系	合葉	6月10日	2.0	10.0	1.5
本葉系	本葉	6月29日	3.7	13.0	2.0

注1) 収穫枚数は、1株当たりの平均的な収穫枚数

注2) 収穫重量は、収穫布1枚当たりの平均的な重量

注3) 荷上げ回数は、1畦当たりの平均的な荷上げ回数

6) 作業方法

区 別	作業方法
1 区	①作業員A・Bはそれぞれ畦1・2の葉たばこを収穫(右図参照) ②作業員A・Bの収穫葉は、それぞれが高架型作業車の上部棚へ手作業にて荷上げ。
2 区	①は上記に同じ。 ②作業員Aの収穫葉は高架型作業車の上部棚へ手作業にて荷上げ。作業員Bの収穫葉は、生葉リフターで自動で荷上げ作業。

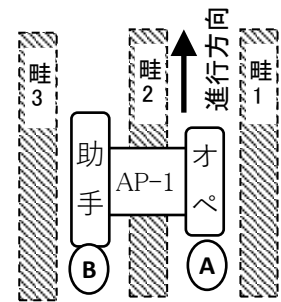


図 作業員の配置

6. 試験成績

1) 作業能率

(1) 中葉系(合葉)

区 別	作業幅		作業速度		理 論 作業量	ほ 場 作業効率	ほ場 作業量	作業人員	労働時間
	m	km/h	m/s	a/h	%	a/h	人	h/10a	
1 区	2.4	0.230	0.064	5.52	81.30	4.50	2	2.25	
2 区	2.4	0.239	0.066	5.74	80.70	4.60	2	2.20	

(付帯作業)

区 別	回 行		畦内停止		その他
	時間	回数	時間	回数	
	分/回	回/10a	分/回	回/10a	分/10a
1 区	1.67	15.0	1.53	23.8	2.10
2 区	1.62	15.0	1.58	23.8	2.10

注1) 畦内停止: 収穫葉を荷上げる為停止した時間

注2) その他: 収穫葉をトラックに積み込む時間

(2) 本葉系(本葉)

区 別	作業幅	作業速度		理 論 作業量	ほ 場 作業効率	ほ場 作業量	作業人員	労働時間
	m	km/h	m/s	a/h	%	a/h	人	h/10a
1 区	2.4	0.350	0.10	8.30	84.70	7.00	2	1.41
2 区	2.4	0.450	0.12	10.70	82.30	8.80	2	1.15

(付帯作業)

区 別	回 行		畦内停止		その他
	時間	回数	時間	回数	
	分/回	回/10a	分/回	回/10a	分/10a
1 区	0.41	9.0	1.20	20.2	4.30
2 区	0.85	11.0	1.03	21.3	4.30

注1) 畦内停止: 収穫葉を荷上げる為停止した時間

注2) その他: 収穫葉をトラックに積み込む時間

3) 作業性・操作性

- (1) 生葉リフターの作業性、操作性およびリフター自体の昇降動作による特段の問題や障害の発生はなかった。
- (2) 高架型作業車による収穫作業は、重量物(10kg)の荷上げを頻繁に行うことから、生葉リフターを使用することにより労働負荷の軽減が図られ、特に本葉系で収穫葉を荷上げするための畦内停止時間の短縮により、作業効率の向上に繋がった。
- (3) ほ場への搬入搬出は約12℃の傾斜および枕地に排水溝が設置してあったが、搬入搬出・回行時の走行の安全性に問題はなかった。

4) その他

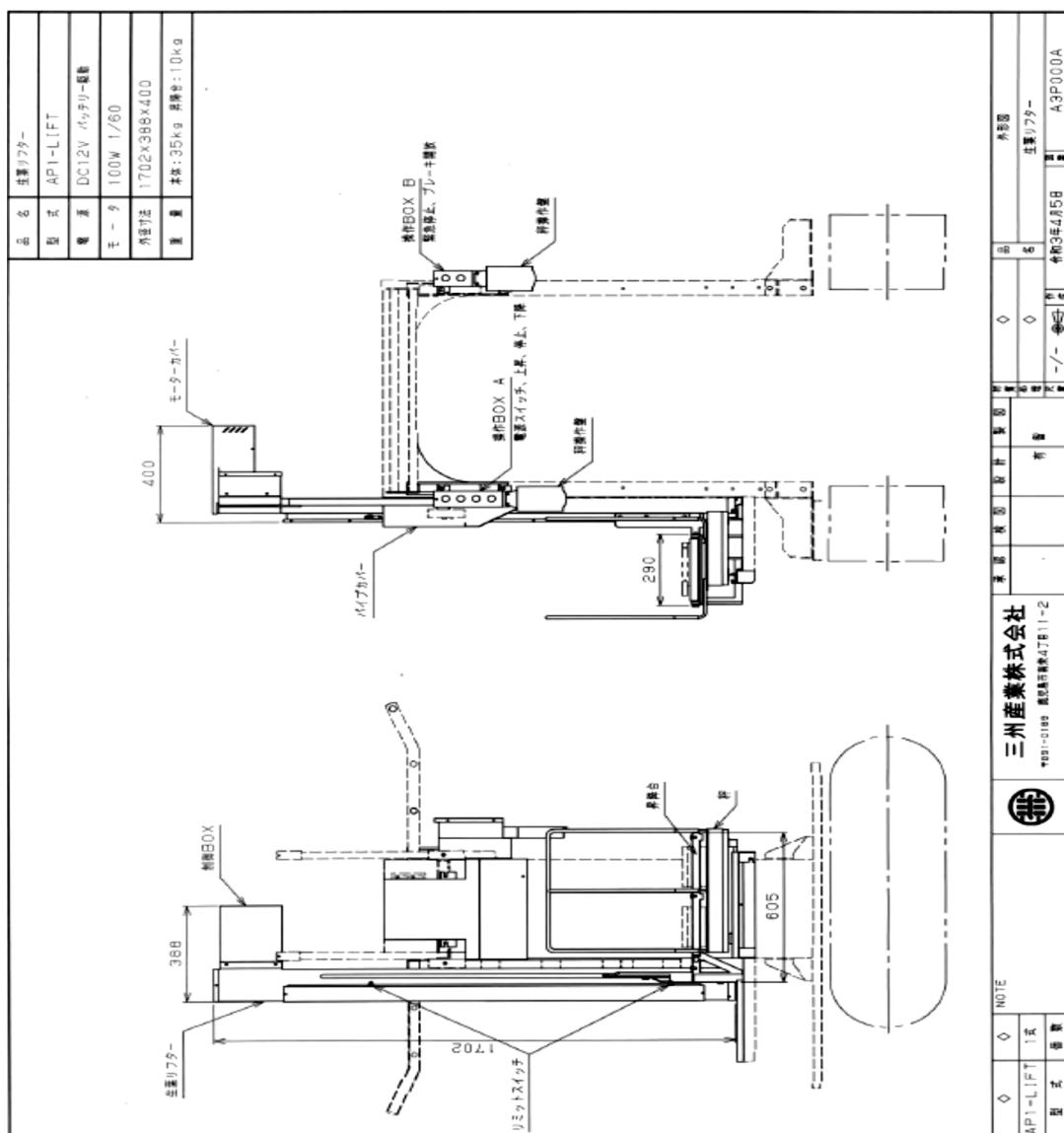
- (1) 生葉リフターの使用によって付帯作業や荷崩れによる葉たばこへの損傷等は見られなかった。

7. 結果の要約

- 1) 2区の生葉リフターは労働負荷の軽減が図られ、かつ、労働時間も減少した。
- 2) 2区生葉リフターの使用による品質への影響はなかった。
- 3) 2区生葉リフターの作業性・操作性および安全面に問題はなかった。

仕様書

名 称	生葉リフター	
型 式	AP1-LIFT	
電 源	モ ー タ	DC12V バッテリー電源
容 量		100W
ギア比		1/60
上昇時間	9.0(s)	
昇降距離	933(mm)	
吊上げ最大荷重	18(kg)	
全 高	1702(mm)	
全 長	680(mm)	
全 幅	740(mm)	
本体重量	本体荷重 60(kg)、昇降台重量 10(kg)	
付属品	ガラス管ヒューズ(10A)	



生葉リフター〈三州産業(株)〉

理 由 書

資 材 名	たばこ心止機
試験対象	心止作業性
処理年月日	2021年11月18日
試験を受託しない理由	<p>既存のたばこ管理作業機 (AP-1) に、心止機 (花軸を切断する刃と花軸を回収する機構を搭載) をアタッチメントとして装着した仕様である。</p> <p>たばこ耕作資材試験に準拠した試験成績書があり、安全性の確認および有効性が判断できるため、2022年度たばこ耕作資材試験の必要はない。</p> <p>ただし、本機は黄色種限定で使用可。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">合 格</div>

たばこ耕作資材試験依頼書

住 所 105-6927 東京都虎ノ門4-1-1 神谷町トラストタワー

会社名 日本たばこ産業株式会社

次のとおり試験を依頼いたします。

品 名 (型式等)	たばこ心止機	
製 造 元 (住所・会社名)	落合刃物工業株式会社 静岡県菊川市西方58	
特許または実用新案番号 (出願・公開・公告番号)		
本 機 材 の 特 徴	お茶収穫で使用する収穫機を、葉たばこ管理作業機 (AP-1) のアタッチメントに改作。花軸を切断する刃と、花軸を回収する機構を搭載。	
主な仕様	1)仕様の内容	・仕様書、主要諸元等 別紙添付
	2)図 面	・全体図、部分図等 別紙添付
	3)主 な 特 徴	・機能説明等 別紙添付
既往の成績	1)タ バ コ	
	2)他 作 物	
試 験 依 頼 の 目 的	葉たばこ心止作業における、労働時間削減効果および作業性・操作性の確認	
試験依頼の内容	方 法	黄色種耕作産地での検証
	希望試験地および規模	数名の耕作者で1a程度
備 考	※本機については、黄色種限定で使用。	

1. 試験対象名 心止め作業性
2. 供試器材名 たばこ心止機
型式(未定)
3. 試験実施機関名 JT中日本地方原料本部
4. 試験実施場所 新潟県胎内市
5. 試験方法
- 1) 供試品種 第2黄色種 エムシー
- 2) 試験区別 1区 慣行(心止鎌による心止め作業)
2区 試験(心止機による心止め作業)
- 3) 供試機の仕様および図面
仕様および図面の部 参照

4) ほ場条件

地 目	土 性	傾 斜	畦溝の 水 分	畦株間 距 離
畑	砂壤土	5°	普通	cm×cm 115×43

注) 1, 2区とも共通

5) 耕作期節等

区別	植付 月 日	心止 月 日	心止め時			
			草丈	花軸長	開花状況	作柄状況
	月 日	月 日	cm	cm	輪	
1区	3月31日	6月15日	164.1	39.3	4~5	正常作
2区	3月31日	6月15日	164.1	39.3	4~5	正常作

6. 試験成績

1) 作業精度

(1) 心止め作業の精度(調査本数210株)

区別	心止位置 ^{※1}			収穫葉の損傷			心止適否 ^{※2}	
	適正	浅い	深い	損傷無し	0.5~1枚	1枚以上	適	否
	%	%	%	%	%	%	%	%
1区	100	0	0	100	0	0	100	0
2区	62	38	0	89	9	2	100	0

注) ^{※1} 適正は標準耕作法と同等な心止位置^{※2} 心止め時の切り口断面を観察し適否を判断

2) 作業効率

(1) 心止め作業

区別	作業速度	理論作業 量※1	回行時間	花軸回収 率※2	作業人員
	km/h	h/10a	分/回	%	人
1区	1.22	0.7	—	100	1
2区	2.81	0.3	1.25	95	1

注) ※1 理論作業量は10a当りの労働時間

※2 心止めた花軸の回収率

3) その他

(1) 作業性・安全性

- ・作業速度が速く、花軸の回収も問題ないため、心止め作業負荷が軽減された。
- ・操作面も特に問題なく、心止め位置も概ね安定していた。
- ・花軸の切断、回収装置ともに安全面に問題はなかった。

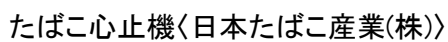
7. 結果の要約

- ・1区(慣行作業)と比較し、2区の心止め機は労働負荷の軽減が図られ、かつ、労働時間も減少した。
- ・摘心位置をやや浅止めに設定したが収穫葉の損傷は見られた。収穫葉への影響を少なくするため、樹高により摘心位置を調整して使用すること。
- ・作業性・安全性に問題はなかった。

製品仕様書

作成年月日(2021 / 10 / 19)

名 称		たばこ心止機
型 式 名		未定
機 体 寸 法	全長 (mm)	930 (スロットル関連部品は含まない)
	全幅 (mm)	990
	全高 (mm)	1180(刈高さ 1370mmのとき AP-1寸法は除く)
	質量 (kg)	-
	刈刃 (mm)	約160
		※AP-1へ取り付け時
機 関	型式名	TLE33 (三菱重工エンジンシステム)
	種類	2サイクルガソリンエンジン
	総排気量 (cc)	32.6
	最大出力/回転速度 kW(PS)	0.97(1.32)
	始動方式	リコイル式
	燃料タンク容量 (L)	0.8
	使用燃料	潤滑油混合ガソリン (50:1)
	刈高さ調整 (mm)	220
	方式	ねじ式
取付可能機種		AP-1



理 由 書

資 材 名	ハンディ幹刈機 (型式:TBK-01)
試験対象	収穫(幹刈)作業性
処理年月日	2021年11月18日
試験を受託しない理由	<p>背負い式動力装置にフレキシブルシャフトを使用したハンディ型の幹刈り鋸を装着した仕様である。刈取り部に幹切断の刃および幹干用の懸吊口用の刃を搭載。</p> <p>たばこ耕作資材試験に準拠した試験成績書があり、安全性の確認および有効性が判断できるため、2022年度たばこ耕作資材試験の必要はない。</p> <p>よって、使用可である。</p> <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">合 格</div>

たばこ耕作資材試験依頼書

住 所 105-6927 東京都虎ノ門4-1-1 神谷町トラストタワー

会社名 日本たばこ産業株式会社

次のとおり試験を依頼いたします。

品 名 (型式等)	ハンディ幹刈機 (型式:TBK-01)	
製 造 元 (住所・会社名)	落合刃物工業株式会社 静岡県菊川市西方58	
特許または実用新案番号 (出願・公開・公告番号)		
本 機 材 の 特 徴	背負式動力エンジンの動力により手元の刈取部が始動。刈取部については、幹切断の刃および幹干用の懸吊口用の刃を搭載	
主な仕様	1)仕様の内容	・仕様書、主要諸元等 別紙添付
	2)図 面	・全体図、部分図等 別紙添付
	3)主 な 特 徴	
既往の成績	1)タ バ コ	
	2)他 作 物	
試 験 依 頼 の 目 的	葉たばこ幹刈作業における、労働時間削減効果および作業性・操作性の確認	
試験依頼の内容	方 法	バーレー種耕作産地での検証
	希望試験地および規模	数名の耕作者で1a程度
備 考		

1. 試験対象名 幹刈作業性
2. 供試器材名 ハンディ幹刈機
型式(TBK-01)
3. 試験実施機関名 JT中日本地方原料本部
4. 試験実施場所 福島県田村市
5. 試験方法
 - 1) 供試品種 第一バーレー種 たいへい
 - 2) 試験区別 1区 慣行(幹ノコによる幹刈作業)
2区 試験(ハンディ幹刈機による幹刈作業)
- 3) 供試機の仕様および図面
仕様および図面の部 参照

4) ほ場条件

地 目	土 性	傾 斜	畦溝の 水 分	畦株間 距 離
黒ボク	壤土	5°	普通	cm×cm 120×33

注) 1, 2区とも共通

5) 耕作期節等

区別	植付 月 日	心止 月 日	幹刈 月 日	幹刈時			
				草丈	着葉数	最下位葉 までの距離 ※	作柄状況
1区	月 日 3月25日	月 日 6月30日	月 日 9月10日	cm 180.0	枚/株 9	cm 70.0	正常作
2区	3月25日	6月30日	9月10日	180.0	9	70.0	正常作

注) ※は畦頂から幹に付着している最下位葉までの距離

6. 試験成績

1) 作業精度

(1) 刈り取り時のたばこ幹の形態

区別	切断位置 (畦頂～)	幹径		刈り取り 幹長	平均 着葉数
		畦頂10cm	切断位置		
1区	cm 60～65	cm 3.5～4.0	cm 3.0	cm 115～120	枚/株 9
2区	60～65	3.5～4.0	3.0	115～120	9

(2) 刈り取り・切り溝の精度

区別	刈り取り		切り溝の精度			調査本数
	正常 ^{a)}	不良 ^{b)}	正常 ¹⁾	不良 ²⁾	幹割 ³⁾	
1区	100	0	90	10	0	30
2区	100	0	93	7	0	30

注) a) 幹が切断され完全に上下に分かれる状態 b) 幹が上下に分かれず繋がっている状態

1) 吊り込みに適した深さ、幅、角度の切り溝

2) 不適正な角度、位置の溝で吊り込み不可や幹が脱落する切り溝

3) 溝を付けることで幹元方向に幹割する状態

2) 作業効率

(1) 幹刈り

区別	作業速度	理論 作業量
	本/s	h/10a
1区	0.19	3.7
2区	0.71	1.0

3) その他

(1) 作業性・安全性

- ・幹刈作業はスムーズに実施され、懸吊口用の切り溝の確保も問題なかった。
- ・作業性もよく、手作業に比し作業速度が向上した。
- ・刃カバーにより安全面も問題なかった。

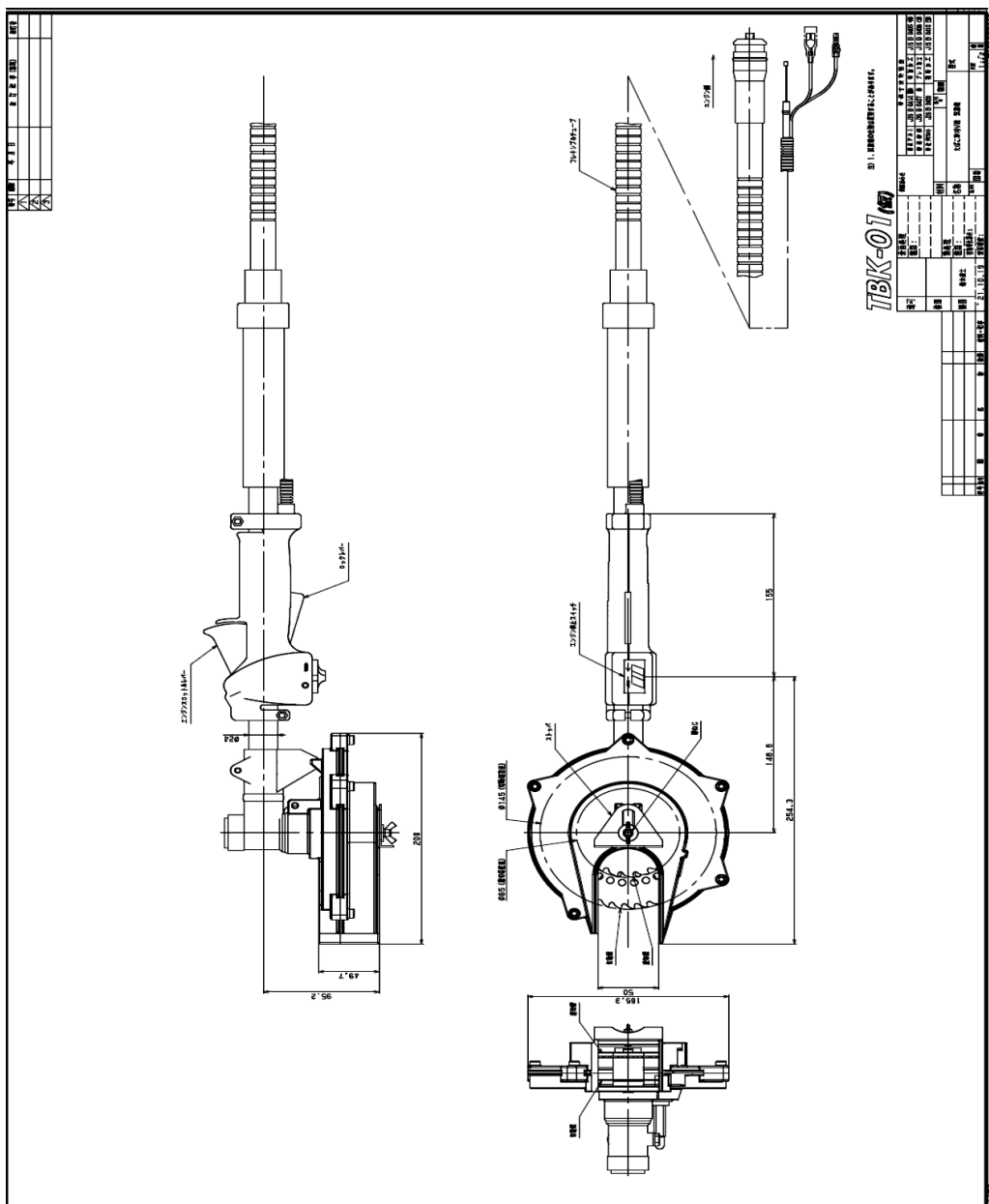
7. 結果の要約

- ・1区(慣行作業)と比較し、2区は刈り取り・切り溝の切り損じが少なく作業精度に問題なかった。作業速度も大幅に向上した。
- ・作業性・安全性に問題はなかった。

製品仕様書

作成年月日(2021 /10 /20)

名 称		たばこ幹刈機
型 式 名		TBK-01
幹 刈 り 機	全長 (mm)	1480 (フレキシブルシャフト含む)
	全幅 (mm)	170
	全高 (mm)	140
	質量 (kg)	-
		※AM-120E(エンジン)は含まない
	切断鋸径 (mm)	φ145 × 1枚
	溝切鋸径 (mm)	φ85 × 2枚
	ギアケース減速比	1:1
機 関	型式名	AM-120E(茶摘機用エンジン)
	種類	2サイクルガソリンエンジン
	総排気量 (cc)	25.4
	最大出力/回転速度 (kW/rpm)	0.89/8500
	始動方式	リコイル式
	燃料タンク容量 (L)	0.56
	使用燃料	潤滑油混合ガソリン (50:1)



ハンディ幹刈機<日本たばこ産業(株)>

見解書

資 材 名	たばこ管理作業車用静電ノズル (型式:AP-AES)
試験対象	薬剤散布作業性
処理年月日	2021年11月18日
試験を受託しない理由	既存のAP-1薬剤散布装置の噴口を、すでに他作物で使用されている静電ノズルに変更し、葉折れ防止のガードを付けた仕様である。 本器材の葉たばこ耕作における薬剤散布の有効性は不明だが、提出された試験成績書、仕様書等から本器材の作業上の危険性はなく、葉たばこ品質へ明らかな悪影響がないと考えられるため、2022年度たばこ耕作資材試験の必要はない。 なお、使用に関しては耕作者の自主判断に委ねる。

たばこ耕作資材試験依頼書

住 所 105-6927 東京都虎ノ門4-1-1 神谷町トラストタワー

会社名 日本たばこ産業株式会社

次のとおり試験を依頼いたします。

品 名 (型式等)	たばこ管理作業車用静電ノズル (型式:AP-AES)	
製 造 元 (住所・会社名)	有光工業株式会社 大阪府大阪市東成区深江北1-3-7	
特許または実用新案番号 (出願・公開・公告番号)	特願 2021-151237(ワイヤー電極に関する特許) 特願 2021-151239(ラビリンスに関する特許)	
本 機 材 の 特 徴	AP-1における農薬散布アタッチである4畦散布機の噴口を静電ノズルに変更した農薬散布機器	
主な仕様	1)仕様の内容	・仕様書等 別紙添付
	2)図 面	・全体図等 別紙添付
	3)主 な 特 徴	
既往の成績	1)タ バ コ	
	2)他 作 物	あり(キュウリ、ナス、トマトなど)
試 験 依 頼 の 目 的	葉たばこ栽培における農薬散布時での、本機器(アタッチ)使用の影響確認	
試験依頼の内容	方 法	黄色種耕作産地における散布検証
	希望試験地および規模	新潟、熊本産地、各数a
備 考	これまでAP-1アタッチとして販売されていた4畦散布機の噴口を、静電ノズル用噴口に変更し、農薬の付着率向上を図るとともに、農薬散布量低減に寄与させる。	

1. 試験対象名 薬剤散布作業性
2. 供試器材名 たばこ管理作業車用静電ノズル
型式 AP-AES
3. 試験実施機関名 JT中日本原料本部および西日本原料本部
4. 試験実施場所 ① 新潟県新潟市赤塚
② 熊本県山鹿市久原
5. 試験方法
- 1) 供試品種 ① 第2黄色種 MC1号
② 第1黄色種 Co319

		① 新潟	② 熊本
2) 試験区別	1区 対照 高架型作業車(AP-1) + 既存噴口噴霧装置	0.8a	—
	2区 試験 高架型作業車(AP-1) + 静電ノズル装着(試作機)	0.8a	2.5a
	3区 試験 高架型作業車(AP-1) + 静電ノズル装着(AP-AES)	—	2.5a

- 3) 供試機の仕様および図面
仕様および図面の部 参照

4) 試験条件

試験地	地 目	土 性	傾 斜	畦溝の 水 分	畦株間 距 離
					cm × cm
① 新潟	畑	砂土	水平	普通	115*42
② 熊本	畑	植壤土	水平	普通	117*42

5) 散布方法

①新潟試験: 既存噴口と静電ノズル噴口(試作機)の薬剤付着率およびそれに伴う作業性を確認

区別	葉分区分		散布月日	噴口の 方向	散布畦数	総噴霧 ノズル数	防除対象 病虫害	設定 散布量
1区			月 日		畦	個		ℓ/10a
	中葉系	合葉	6月12日	水平噴霧	3.0	18	赤星病	130.0
	本葉系	本葉	8月12日	水平噴霧	3.0	18	赤星病	130.0
2区	中葉系	合葉	6月12日	水平噴霧	3.0	18	赤星病	130.0
	本葉系	本葉	8月12日	水平噴霧	3.0	18	赤星病	130.0

※心止め位置から、3枚目(上葉)、6枚目(本葉)、10枚目(合葉)にて検証

②熊本試験: 試作機と改作を施したAP-AESの薬剤付着率およびそれに伴う作業性を確認

区別	葉分区分		散布月日	噴口の 方向	散布畦数	総噴霧 ノズル数	防除対象 病虫害	設定 散布量
2区			月 日		畦	個		ℓ/10a
	中葉系	合葉	6月15日	水平噴霧	4.0	32	—	100.0
	本葉系	本葉		水平噴霧	4.0	32	—	
3区	中葉系	合葉	6月15日	水平噴霧	4.0	32	—	100.0
	本葉系	本葉		水平噴霧	4.0	32	—	

※水散布にて、各着位葉の付着率を検証

6. 試験成績

1) 薬剤付着率(感水紙にて付着率を確認)

- ・既存噴口に比し、静電ノズルは葉の表裏への付着率は向上した。

2) 作業性・操作性

- ・新潟で実施した試作機における検証では、農薬散布作業自体は、慣行とほぼ同程度であるものの、他作物の実績から農薬散布量を低減できるため、慣行に比し作業時間短縮の可能性が見込まれる。
- ・試作機における検証では機器の構造がやや複雑であったものの、AP-AESでは機器の取り付け等が大幅に改善され、慣行機器の取り付けとほぼ同等であった。
- ・AP-AESでは、ガード設置により農薬散布時のアタッチメントによる葉折れリスクはなかった。

3) その他

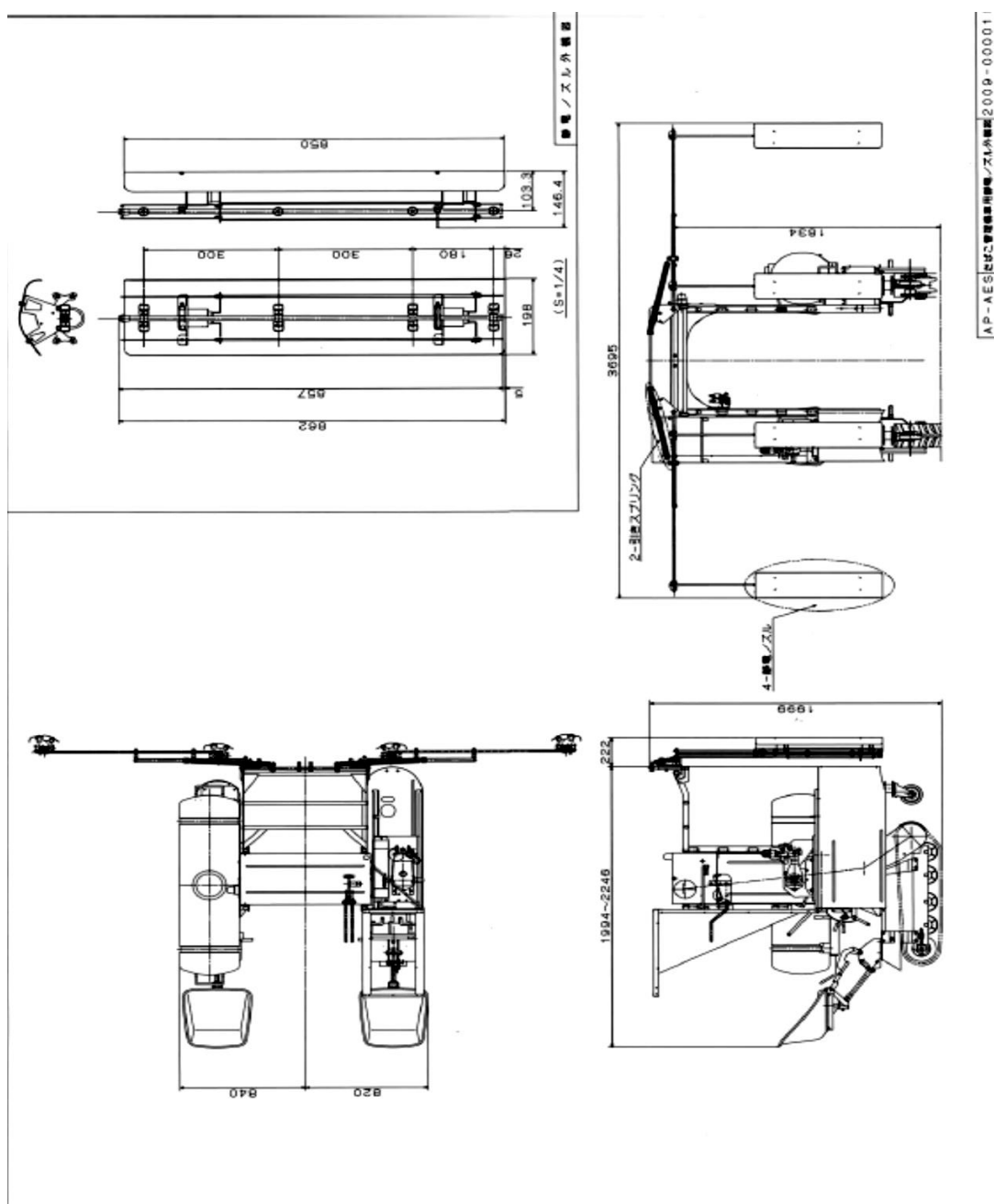
- ・特になし

7. 結果の要約

- ・作業性は既存噴口とほぼ同等で問題なく、また噴霧装置装着の操作性も問題なかった。
- ・本機使用により、既存噴口に比し、葉面における薬剤の付着率は大幅に向上した。
- ・本機使用により、既存噴口に比し、葉面付着率の向上により散布量の低減が可能と見込まれる。

【たばこ管理作業車用静電ノズル仕様書】

型 式	AP-AES
全 長 mm	146.4
全 幅 mm	198.0
全 高 mm	862.0
重 量	約1.8kg/セット × 4セット
電源電圧	DC12V
圧力範囲	15kgf/cm ²
噴 霧	垂直噴管4本（全噴口32個）
対応噴霧機	SR-305・YS301（3速プランジャーポンプ）
対応機種	AP-S・AP-4VS・AP-SC



農薬試験成績書審査

資 材 名	ストロビーフロアブル
審査依頼 成績書	官能検査:2020年度実施2件、2021年度実施1件
審査依頼試験成績書を 適正と判断 する理由	審査依頼された試験成績書は、当協会の定めるたばこ耕作資材試験実施要領に基づき実施され、記載されていることから、官能検査の試験結果を確認する成績書として適正であると判断する。
本成績書の 結果の概要	○官能検査 ストロビーフロアブル 収穫12日および5日前の3,000倍希釈液 2回 茎葉散布で喫味に対する影響は認められなかった。
備考	

農 薬 試 験 成 績 書 審 査 依 頼 書

住 所 東京都中央区日本橋室町3-4-4
会社名 BASFジャパン株式会社

次のとおり審査を依頼いたします。

品 名 (旧名称)		ストロビーフロアブル
製 造 元 (住所・会社名)		東京都中央区日本橋室町3-4-4 BASFジャパン株式会社
特許または実用新案番号 (出願・公開・公告番号)		
農 薬 登 録 済 内 容 (申請中を含む)		別紙参照
本 農 薬 の 特 徴		
成分組成	1)主 成 分 (物質名・構造式 ・含有率)	クレソキシムメチル 44. 2%
	2)助 剤 (物質名・含有率)	
理化学的性 状	1)物 理 性	
	2)化 学 性	
	3)毒 性	○人畜毒性:普通物 ○水産動植物への影響:B類相当
既往の 成績	1)タ バ コ	
	2)他 作 物	
審査依頼 の内容	試験種類及び試験数	官能検査:3件
	試験実施年	2020～2021年度
	試験実施機関	日本たばこ産業株式会社 東日本原料本部/西日本原料 本部/葉たばこ研究所
備 考 (添付資料)	・技術説明書(添付資料)の内訳… 登録内容のパンフレット	

1 試験対象 官能検査

- 2 供試器材 ストロビーフロアブル(BASFジャパン)
 ・有効成分 クレソキシムメチル 44.2%
 ・Lot No. 23.10 SIK-01

3 試験実施機関 日本たばこ産業株式会社 葉たばこ研究所(担当者:北林 英夫、佐藤 徳昭)

4 試料採取場所 栃木県小山市(所内本畑)

5 試験方法

1) 供試品種 第2バーレー種 みちのく1号

2) 試験区別および供試面積

試験区別	区 別	濃 度	施用量	施用回数	供試面積
1 区	無処理	—	—	—	1.0a
2 区	ストロビーフロアブル	3,000倍	中葉:180ℓ/10a 上葉:180ℓ/10a	中葉、上葉とも 収穫前 茎葉散布2回	2.0a

3) 処理方法

2区は、中葉および上葉収穫用の株を別に設け、以下の処理を行った。

中葉は7月15日(収穫12日前)および7月22日(収穫5日前)、上葉は8月5日(収穫12日前)および8月12日(収穫5日前)に、所定濃度および所定量の薬液を背負式動力噴霧器を用いて、葉の表裏にむらなく散布した。

各散布処理後の7月15日夕方および8月12日午後に降雨があったが、葉面はすでに乾いており、降雨による影響はなかった。

また、7月22日早朝に降雨があったが、葉面の乾きを確認したのち、散布処理を行った。

4) 試験ほ地の概要

地 目	地 勢	土壌種類	土 性	耕土の 深さ	排水の 良否
畑	平坦	赤ボク土	壤土	20 ^{cm}	普通

5) 栽培概要

- (1) 施肥量 N : 14.4, P₂O₅ : 31.0, K₂O : 32.4, 堆肥 : 2,000 (kg/10a)
 (2) 畦株間距離 120cm×35cm (2,380本/10a)
 (3) 被覆方法 高畦折衷マルチ(配色シルバー、6月5日除去)
 (4) 移植月日 2020年 4月 27日
 (5) 土寄月日 なし
 (6) 心止月日 2020年6月24日、6月26日

6) 供試農薬以外に使用した薬剤

試験区別	農薬名	濃度	施用量	施用月日
各区共通	トレボン乳剤	1,500倍	110ℓ/10a	5月15日
各区共通	コンタクト乳剤	40倍	15ml/株	6月29日
各区共通	コンタクト乳剤	30倍	15ml/株	7月20日

7) 試料採取

試料の着位	試験区別	薬剤処理 ^{※1}		試料採取		1回目薬剤処理から収穫まで		
		月日	天候	月日	天候	日数 日	降水日数 日	降水量 mm
中葉	各区共通	7月15日 7月22日	曇のち雨 曇のち晴	7月27日	曇一時雨	12	11 ^{※2}	81.5 ^{※3}
上葉	各区共通	8月5日 8月12日	晴時々曇 晴一時雨	8月17日	晴れ	12	1	23.0

※1:1区は、薬剤処理なし。

※2:収穫日を含む(当日の収穫前に降雨)

※3:収穫日の降水量を含む(当日の収穫前降水量1mm)

8) 収穫後の処理方法 葉たばこ研究所標準乾燥

9) 官能検査 2020年12月10日から12月24日の間、葉たばこ研究所において、調査を行った。

6 試験成績

表－1 薬剤処理から試料採取までの気象表（小山アメダスポイント）

月 日	平均気温 ℃	最高気温 ℃	最低気温 ℃	日照時間 h	降水量 mm	摘要
中葉収穫区						
7月15日	20.2	24.4	17.0	0.0	14.5	1回目散布:13時散布処理_乾き 確認 17時より降雨
7月16日	20.0	23.5	17.0	0.3	0.5	
7月17日	20.0	22.2	18.0	0.0	4.0	2回目散布:14時に散布処理_ 乾き確認 15時に降雨
7月18日	20.9	23.1	19.2	0.0	2.0	
7月19日	24.3	29.8	20.6	4.0	0.0	
7月20日	25.8	31.6	21.3	8.0	13.0	
7月21日	24.2	27.2	21.9	0.0	1.0	
7月22日	25.8	31.3	23.4	2.5	0.5	
7月23日	22.6	24.0	20.8	0.0	9.0	
7月24日	24.3	27.8	20.4	1.5	0.0	
7月25日	24.4	26.8	22.6	0.0	14.0	
7月26日	24.7	26.9	23.5	0.1	22.0	
7月27日	25.4	27.6	23.6	0.2	3.5	中葉収穫:収穫前6時までに1mmの降雨
上葉収穫区						
8月 5日	29.0	34.8	23.9	9.2	0.0	1回目散布
8月 6日	28.7	34.2	24.5	7.7	0.0	
8月 7日	28.9	34.5	24.5	6.2	0.0	2回目散布:8時散布処理_乾き 確認 13時および19時に降雨
8月 8日	26.5	30.8	24.1	1.0	0.0	
8月 9日	28.1	34.6	23.1	4.7	0.0	
8月10日	29.9	35.5	25.2	6.7	0.0	
8月11日	31.3	38.9	25.7	12.6	0.0	
8月12日	28.7	35.2	25.8	5.4	23.0	
8月13日	29.5	36.3	24.9	8.8	0.0	
8月14日	29.1	34.4	24.2	10.9	0.0	
8月15日	30.4	36.5	25.8	9.7	0.0	
8月16日	30.0	34.9	26.8	8.5	0.0	
8月17日	30.2	36.5	25.9	7.4	0.0	上葉収穫

表－2 官能検査結果

供試着位	調査結果
中葉	ストロベリーフロアブル 3,000倍希釈液、180ℓ/10a、収穫12日前および5日前の茎葉散布 2回処理で、喫味に対する影響は認められなかった。
上葉	ストロベリーフロアブル 3,000倍希釈液、180ℓ/10a、収穫12日前および5日前の茎葉散布 2回処理で、喫味に対する影響は認められなかった。
検査員	檜木野 剛、中村 崇、田中 正起、草刈 太一、大瀧 浩、吉崎 誠人、上山 隼、竹松 知紀、高橋 達也、大山 清、古賀 一治、新城 亮、岩本 啓秀、山口 直人、成松 千寿、瀬畑 真、佐藤 徳昭、根岸 勇太、小松 知之

1 試験対象 官能検査

- 2 供試器材 ストロビーフロアブル(BASFジャパン)
 ・有効成分 クレソキシムメチル 44.2%
 ・Lot No. 21.10 SHB-02G

3 試験実施機関 日本たばこ産業株式会社 西日本原料本部 (担当者:本 晃伸、小田 浩三)

4 試料採取場所 熊本県合志市(ひのくにふれあいセンター)

5 試験方法

1) 供試品種 第1黄色種 コーকার319

2) 試験区別および供試面積

試験区別	区 別	濃 度	施用量	施用回数	供試面積
1 区	無処理	—	—	—	1.0a
2 区	ストロビーフロアブル	3,000倍	中葉:180ℓ/10a 上葉:180ℓ/10a	中葉、上葉とも 茎葉散布2回	2.0a

3) 処理方法

2区は、中葉および上葉収穫用の株を別に設け、以下の処理を行った。

中葉は6月3日(収穫12日前)および6月10日(収穫5日前)、上葉は7月8日(収穫12日前)および7月15日(収穫5日前)に、所定濃度および所定量の薬液を背負式動力噴霧器を用いて、葉の表裏にむらなく散布した。

散布した7月15日は夕方から降雨があったが、葉面は既に乾いており、降雨による影響はなかった。

4) 試験ほ地の概要

地 目	地 勢	土壌種類	土 性	耕土の 深さ	排水の 良否
畑	平坦	淡色黒ボ ク土	壤土	20 ^{cm}	良

5) 栽培概要

- (1) 施肥量 N : 8.1, P₂O₅ : 20.8, K₂O : 31.0, 堆肥 : 1,545 (kg/10a)
 (2) 畦株間距離 117cm×42cm (2,035本/10a)
 (3) 被覆方法 高畦折衷マルチ(配色シルバー、全期間)、不織布(3月17日～4月14日)
 (4) 移植月日 2020年3月11日
 (5) 土寄月日 2020年4月15日
 (6) 心止月日 2020年5月27日

6) 供試農薬以外に使用した薬剤

試験区別	農 薬 名	濃 度	施用量	施用月日
各区共通	コンタクト乳剤	40倍	10ml/株	5月12日
各区共通	コンタクト乳剤	40倍	15ml/株	5月22日
各区共通	イエローリボンS乳剤	50倍	20ml/株	6月3日
各区共通	イエローリボンS乳剤	50倍	20ml/株	6月17日

※ コンタクト乳剤、イエローリボンS乳剤ともわき芽抑制のため使用。

7) 試料採取

試料の着位	試験区別	薬 剤 処 理※		試 料 採 取		1回目薬剤処理から収穫まで		
		月 日	天 候	月 日	天 候	日 数 日	降水日数 日	降水量 mm
中 葉	各区共通	6月3日 6月10日	曇時々晴 曇のち雨	6月15日	曇時々雨	12	7	264.0
上 葉	各区共通	7月8日 7月15日	曇時々晴 曇のち雨	7月20日	晴	12	8	345.0

※:1区は、薬剤処理なし。

8) 収穫後の処理方法 産地慣行乾燥

9) 官能検査 2020年10月7日から11月25日の間、日本たばこ産業(株)
西日本原料本部において、調査を行った。

6 試験成績

表ー1 薬剤処理から試料採取までの気象表(菊池アメダスポイント)

月 日	平均気温 ℃	最高気温 ℃	最低気温 ℃	日照時間 h	降水量 mm	摘要
中葉収穫区						
6月3日	21.6	26.0	17.2	0.4	0.5	中葉1回目散布 (散布後13時間降雨無し)
6月4日	24.5	31.1	20.2	4.8	0.0	
6月5日	25.5	33.4	18.0	10.1	0.0	
6月6日	24.5	29.9	21.6	0.0	0.0	
6月7日	25.8	33.4	19.7	10.5	0.0	
6月8日	26.0	34.6	18.0	10.0	0.0	中葉2回目散布
6月9日	26.0	32.0	19.9	11.1	0.0	
6月10日	26.7	33.2	20.4	9.3	2.5	
6月11日	23.5	24.3	22.9	0.0	110.0	
6月12日	24.7	28.0	22.9	0.0	45.0	
6月13日	25.7	27.2	24.8	0.0	78.0	中葉収穫
6月14日	25.9	28.0	24.3	0.2	21.5	
6月15日	23.9	27.4	20.0	1.1	6.5	
上葉収穫区						
7月8日	25.6	29.2	22.9	2.9	1.0	上葉1回目散布
7月9日	24.0	27.6	23.0	1.2	52.5	
7月10日	24.0	26.8	22.8	0.0	77.5	
7月11日	24.8	27.3	21.9	0.0	123.0	
7月12日	23.8	26.2	22.0	0.0	25.0	
7月13日	26.5	29.9	22.7	0.0	0.0	上葉2回目散布 (散布後5時間降雨無し)
7月14日	23.4	27.0	21.2	0.2	62.5	
7月15日	21.8	24.4	20.1	0.0	2.0	
7月16日	23.3	28.4	19.9	4.6	1.5	
7月17日	25.0	31.3	19.7	10.3	0.0	
7月18日	26.1	31.1	22.2	5.6	0.0	上葉収穫
7月19日	27.8	33.2	23.6	5.2	0.0	
7月20日	28.7	33.1	25.1	6.8	0.0	

表－2 官能検査結果

供試着位	調査結果
中葉	ストロビーフロアブル 3,000倍希釈液、180ℓ/10a、収穫12日前および5日前の茎葉散布2回処理で、喫味に対する影響は認められなかった。
上葉	ストロビーフロアブル 3,000倍希釈液、180ℓ/10a、収穫12日前および5日前の茎葉散布2回処理で、喫味に対する影響は認められなかった。
検査員	瀧 浩昭、二宮 基史、曾根 浩史、楠木 正明、米田 基、川田 耕嗣、宮森 美智夫、泉 拓夫、恒吉 宏和、金丸 勝一、宮元 守、小島 慎之介、森田 貴文、西村 天志、小暮 謙仁

1 試験対象 官能検査

- 2 供試器材 ストロビーフロアブル(BASFジャパン)
 ・有効成分 クレソキシムメチル 44.2%
 ・Lot No. SOJ-01G

3 試験実施機関 日本たばこ産業株式会社 東日本原料本部(担当者:中野 翔介)

4 試料採取場所 岩手県九戸郡軽米町

5 試験方法

1) 供試品種 第1バーレー種 バーレー21

2) 試験区別および供試面積

試験区別	区 別	濃 度	施用量	施用回数	供試面積
1 区	無処理	—	—	—	2.33a
2 区	ストロビーフロアブル	3,000倍	中葉:180ℓ/10a 上葉:180ℓ/10a	中葉、上葉とも 収穫前 茎葉散布2回	2.33a

3) 処理方法

2区は、中葉および上葉収穫用の株を別に設け、以下の処理を行った。

中葉は6月30日(収穫12日前)および7月7日(収穫5日前)、上葉は7月25日(収穫13日前)および8月2日(収穫5日前)に、所定濃度および所定量の薬液を背負式動力噴霧器を用いて葉の表裏にむらなく散布した。

上葉2回目の散布は当初予定日の雨天により晴天を持ち1日延期して実施。収穫5日前散布となるよう収穫日程も併せて変更を実施した。

4) 試験ほ地の概要

地 目	地 勢	土壌種類	土 性	耕土の 深さ	排水の 良否
畑	傾斜	褐色森林土	埴壤土	20 ^{cm}	良

5) 栽培概要

- (1) 施肥量 N : 10.8, P₂O₅ : 20.6, K₂O : 27.0
 (2) 畦株間距離 120cm×35cm (2,380本/10a)
 (3) 被覆方法 生分解マルチ(黒、全期間)
 (4) 移植月日 2021年 4月 23日
 (5) 土寄月日 なし
 (6) 心止月日 2021年 7月 3日

6) 供試農薬以外に使用した薬剤

試験区別	農 薬 名	濃 度	施用量	施用月日
各区共通	エキガゾール乳剤	40倍	20ml/株	7月4日
各区共通	エキガゾール乳剤	40倍	20ml/株	7月20日

・エキガゾール乳剤をわき芽抑制のため使用。

7) 試料採取

試料の着位	試験区別	薬 剤 処 理		試 料 採 取		1回目薬剤処理から収穫まで		
		月 日	天 候	月 日	天 候	日 数 日	降水日数 日	降水量 mm
中 葉	各区共通	6月30日 7月7日	晴 曇り	7月12日	晴	12	6	68.5
上 葉	各区共通	7月25日 8月2日	晴 晴	8月7日	晴	13	7	36.0

8) 収穫後の処理方法 産地慣行乾燥

9) 官能検査 2021年12月17日から12月23日の間、日本たばこ産業(株)東日本原料本部において調査を行った。

6 試験成績

表ー1 薬剤処理から試料採取までの気象表(軽米アメダスポイント)

月 日	平均気温 ℃	最高気温 ℃	最低気温 ℃	日照時間 h	降水量 mm	摘要
中葉収穫区						
6月30日	20.6	27.7	15.4	10.1	0.0	中葉1回目散布
7月 1日	21.2	27.3	14.9	4.9	0.0	
7月 2日	20.0	25.9	17.3	5.1	0.0	
7月 3日	17.7	20.3	15.6	0.0	0.0	
7月 4日	18.1	23.8	15.3	4.0	4.5	
7月 5日	21.7	28.3	16.3	3.4	21.0	中葉2回目散布
7月 6日	22.0	25.1	19.0	3.1	0.0	
7月 7日	20.8	24.2	18.4	0.0	0.0	
7月 8日	20.4	23.8	18.9	0.0	8.0	
7月 9日	20.4	23.5	18.8	0.0	11.0	
7月10日	20.1	24.2	18.7	0.0	7.5	中葉収穫
7月11日	22.0	27.5	18.5	0.6	16.5	
7月12日	22.3	27.3	19.3	3.5	0.0	
上葉収穫区						
7月25日	25.3	31.4	20.3	10.1	0.0	上葉1回目散布
7月26日	23.3	27.9	19.7	8.9	0.0	
7月27日	21.0	23.8	19.5	0.0	13.0	
7月28日	23.4	28.3	21.2	1.8	10.5	
7月29日	25.9	33.7	21.4	9.3	0.5	
7月30日	25.1	31.6	21.5	3.9	1.0	上葉2回目散布
7月31日	23.0	26.3	21.3	0.0	1.5	
8月 1日	22.5	24.3	21.3	0.0	6.0	
8月 2日	26.7	34.0	19.8	9.8	0.0	
8月 3日	28.2	35.7	22.9	10.7	0.0	
8月 4日	26.8	33.7	22.7	8.2	3.5	上葉収穫
8月 5日	27.1	34.4	21.9	12.1	0.0	
8月 6日	27.8	34.9	21.6	12.2	0.0	
8月 7日	28.5	35.7	21.8	11.1	0.0	

表－2 官能検査結果

供試着位	調査結果
中葉	ストロビーフロアブル 3,000倍希釈液、180ℓ/10a、収穫12日前および5日前の茎葉散布 2回処理で、喫味に対する影響は認められなかった。
上葉	ストロビーフロアブル 3,000倍希釈液、180ℓ/10a、収穫12日前および5日前の茎葉散布 2回処理で、喫味に対する影響は認められなかった。
検査員	中山武美、青木優作、菊池将浩、内藤秀明、山田弘幸、石井浩信、芳賀正喜、中島周、松田征大、川村壽証、岸千恵、岡田徳馬、山田栞

変更申請の承認

変更申請の承認を受けた資器材	たばこ管理作業車
承認年月日	2021年6月25日
変更申請を承認した理由	<p>既に実用性が認められている「たばこ管理作業車、型式：AP-1CH（2019年度変更申請承認 公開公報50号）」の座席支工を87.5mm延長および形状変更し、豆葉除去やわき芽除去及び第1回目収穫等の作業性向上へ繋がるよう変更した仕様である。</p> <p>提出された資料により検討した結果、特段の問題はないと判断されるので、本機仕様の変更申請を承認します。</p>

申請年月日	2021年5月24日
変更する資器材の名称	たばこ管理作業車 (型式：AP-1CH)
会社名	ヤンマーアグリ(株)鹿児島事業所
変更項目	仕様変更（部品変更）
過去の試験および書類審査	・ 変更申請承認済（2019年度）
添付資料	・ 図面、写真等

1. 仕様の変更

変更の内容	座席支工の長さおよび取付版の変更
-------	------------------

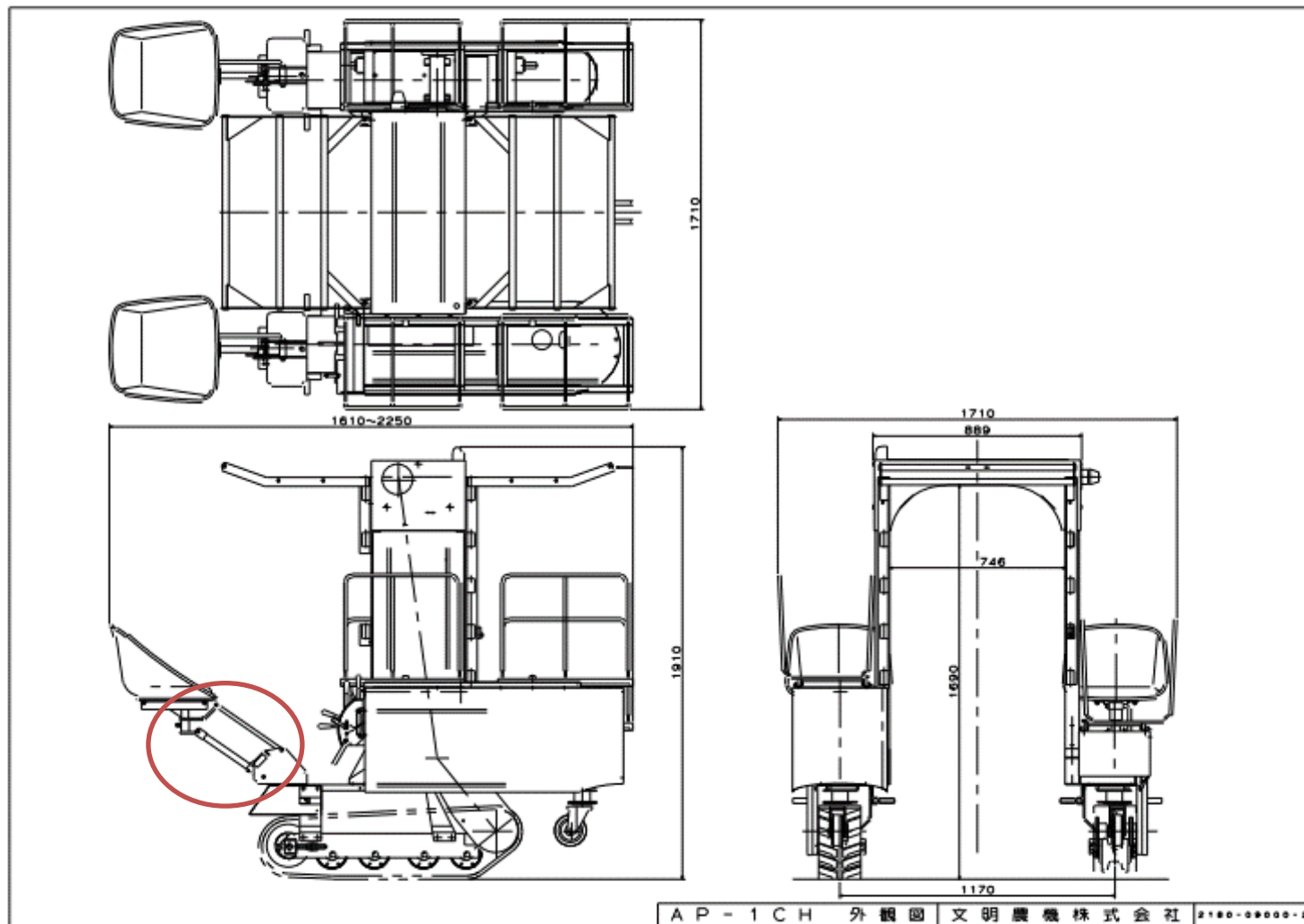
変更箇所

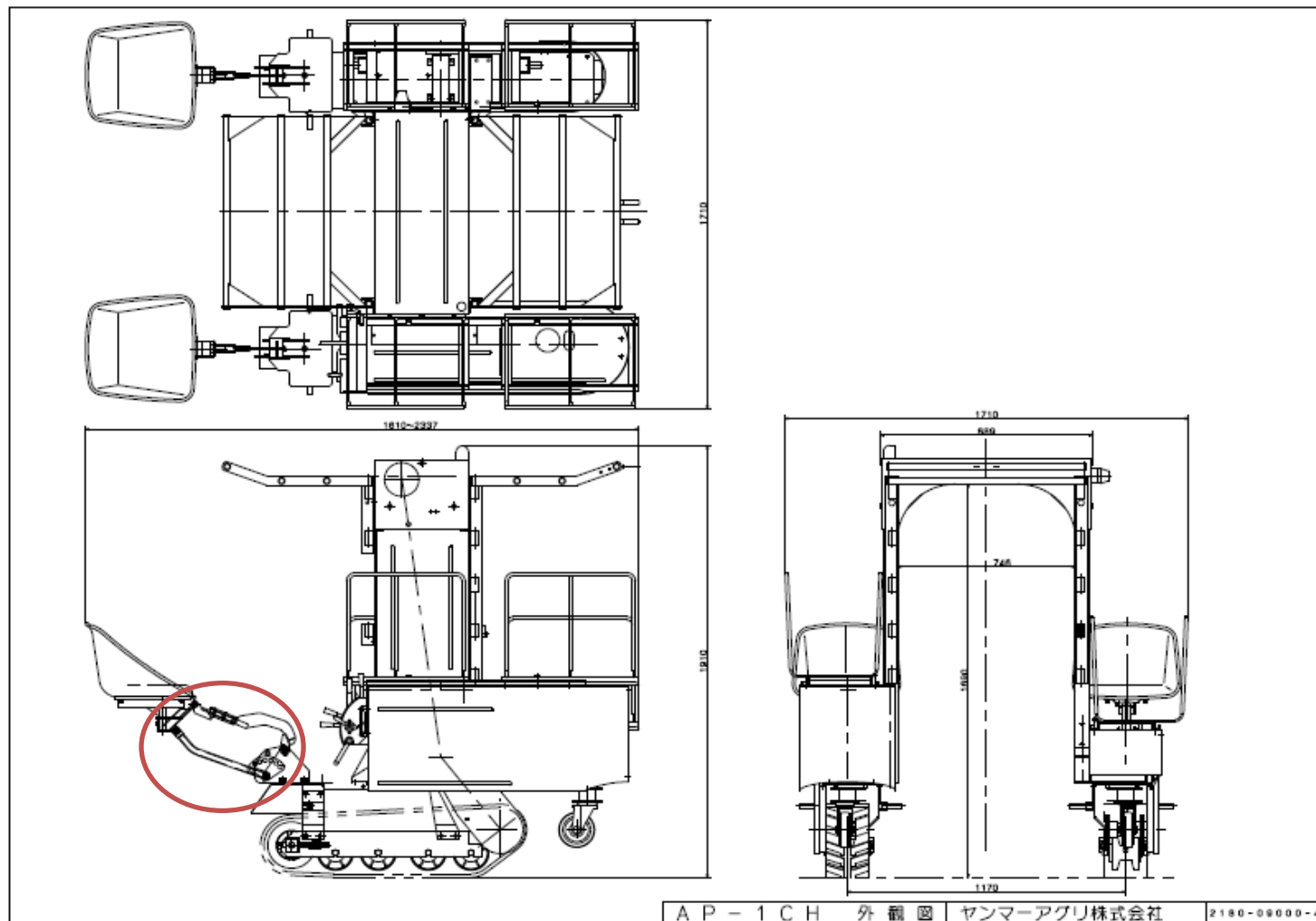
項 目	変更前	変更後
座席支工の長さ	340.0 mm	427.5 mm

2. 名称、型式、品番等の変更
なし。3. 変更前の資器材の取扱い
旧部品は2030年で販売終了。

【外観図】 ※変更箇所は ○ の部分

＜変更前＞





【外観図】 ※変更箇所は○の部分

<変更後>

変更申請の承認

変更申請の承認を受けた資器材	BK苦土高りん35号(トップリン)
承認年月日	2021年7月15日
変更申請を承認した理由	<p>既に産地で使用されている「35.0粒状りん酸肥料 登録番号:93170」(試験年不明)の生産工場変更により、水溶性りん酸およびく溶性苦土の成分量、肥料の名称、登録番号を変更したりん酸肥料である。</p> <p>提出された資料により検討した結果、特段の問題はないと判断されるので、本りん酸肥料の仕様・名称等の変更申請を承認します。</p>

申請年月日	2021年7月2日
変更する資器材の名称	35.0粒状りん酸肥料(トップリン)
会社名	株式会社 バイオケミカ
変更項目	仕様、名称、登録番号
過去の試験および書類審査	・試験年不明(昭和40年代前半と推定)
添付資料	・登録票の写し

1. 仕様の変更

変更の内容	使用原料および原料配合割合の変更 (保証成分量としての「く溶性りん酸」は変更なし)
-------	--

変更箇所(原料使用割合%)

原料名	変更前	変更後
過りん酸石灰	—	19.0
重過りん酸石灰	81.3	75.0
水酸化苦土肥料	—	4.0
副産苦土肥料	6.5	—
硫酸	—	2.0
組成均一化促進剤	12.2	—

2. 名称、ペットネーム、登録番号の変更

項 目	変更前	変更後
名称	35.0粒状混合りん酸肥料	BK苦土高りん35号
ペットネーム	トップリン	同左
登録番号	93170	106605

3. 変更前の資器材の取扱い
併売しない。

たばこ耕作資材委託試験公開公報
(第 53号)

2022年(令和4年) 3月8日 印刷

2022年(令和4年) 3月11日 発行

発行:財団法人 日本葉たばこ技術開発協会

〒105-0013 東京都港区浜松町2-7-1
第38荒井ビル7階
